

二十四輩順拜圖會

越前加賀

二

八波生
1810
10-2





1810
10-2

二十四輩順拜圖會卷之二

目錄

○越前之部

荒乳山

毫攝寺

誠照寺

橋宗賢

東本願寺御坊所

興宗寺

細呂本鋸坂

三國乃湊之國
日枝女所乃國

加賀之部

敦賀の湊

陽願寺

法雲寺

專照寺

本覺寺

柘植乃御旧跡

吉瀨山

越前軍物湊

證誠寺

法光寺

真宗寺

西本願寺御坊所

九十九控の國
船橋乃國

嫁風谷の由來



二十四輩順祥圖會卷之二
魏茶園

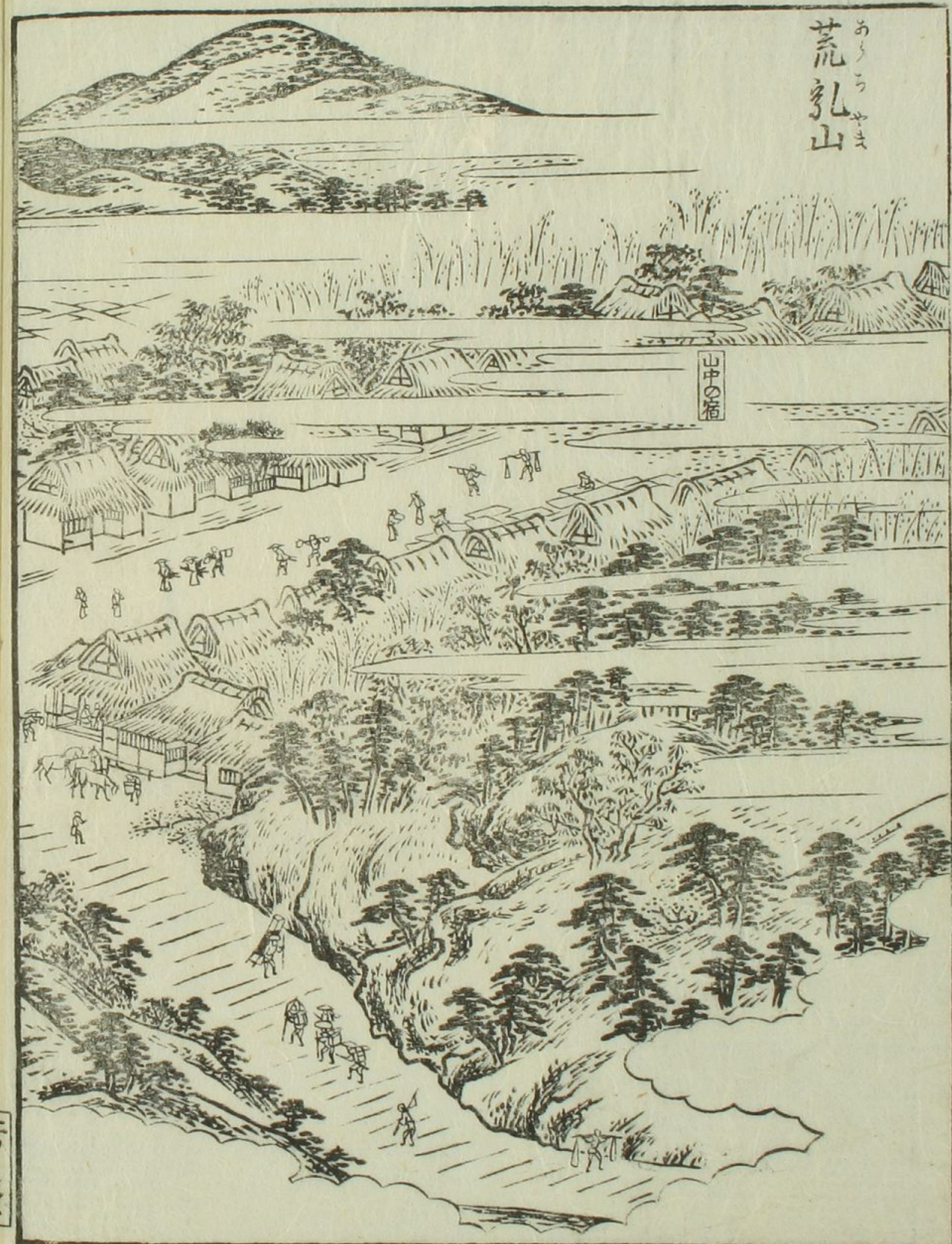
○荒乳山の近に魏茶園の境山中の宿あり江州大物類寺より約
 三十三里余往昔親聖人魏園を遷移す所ゆけり今魏園に
 移るや其地
 魏園なるはつらつと其地を以て其地を以て其地を以て其地を以て
 と詠ぐさせ給ふけ所を以て其地を以て其地を以て其地を以て
 よりの往來繁く樹石あり其地を以て其地を以て其地を以て
 又容易し其地を以て其地を以て其地を以て其地を以て
 滄海と名を以て其地を以て其地を以て其地を以て
 ○敦賀郡敦賀の荒乳山より約三十三里に置る魏茶園の地
 敦賀の人其地を以て其地を以て其地を以て其地を以て
 け地は花女ありて其地を以て其地を以て其地を以て其地を以て
 魏茶園と名を以て其地を以て其地を以て其地を以て其地を以て
 角藤と名を以て其地を以て其地を以て其地を以て其地を以て
 ○元弘大明神乃社に敦賀郡あり其地を以て其地を以て其地を以て
 其地を以て其地を以て其地を以て其地を以て其地を以て其地を以て

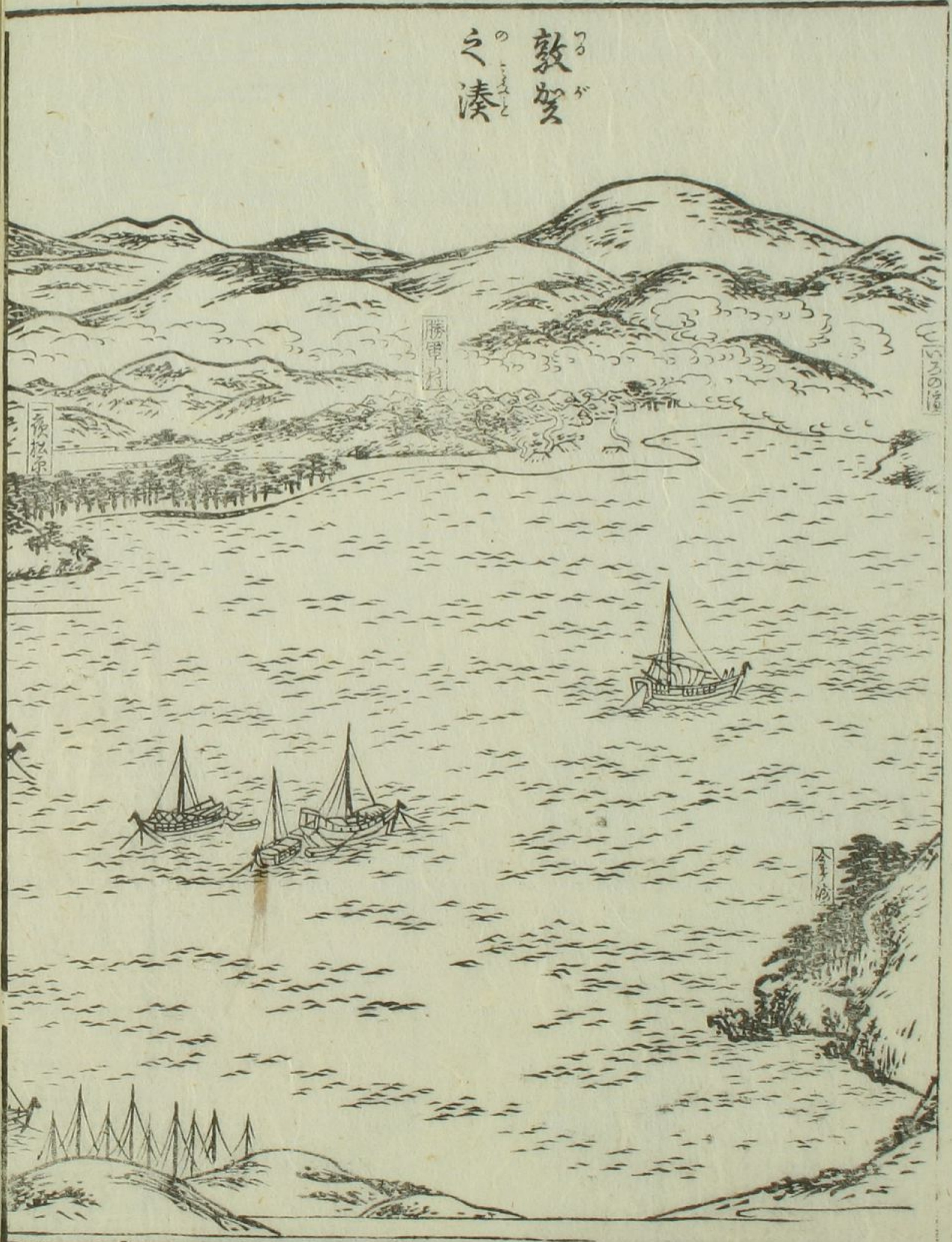
篠生寺 魏園
 本覚寺
 々々川乃圖
 専光寺

向山の圖
 西照寺
 々々川
 金澤東御坊
 本誓言寺

興宗寺
 本誓言寺
 同西御坊

以上

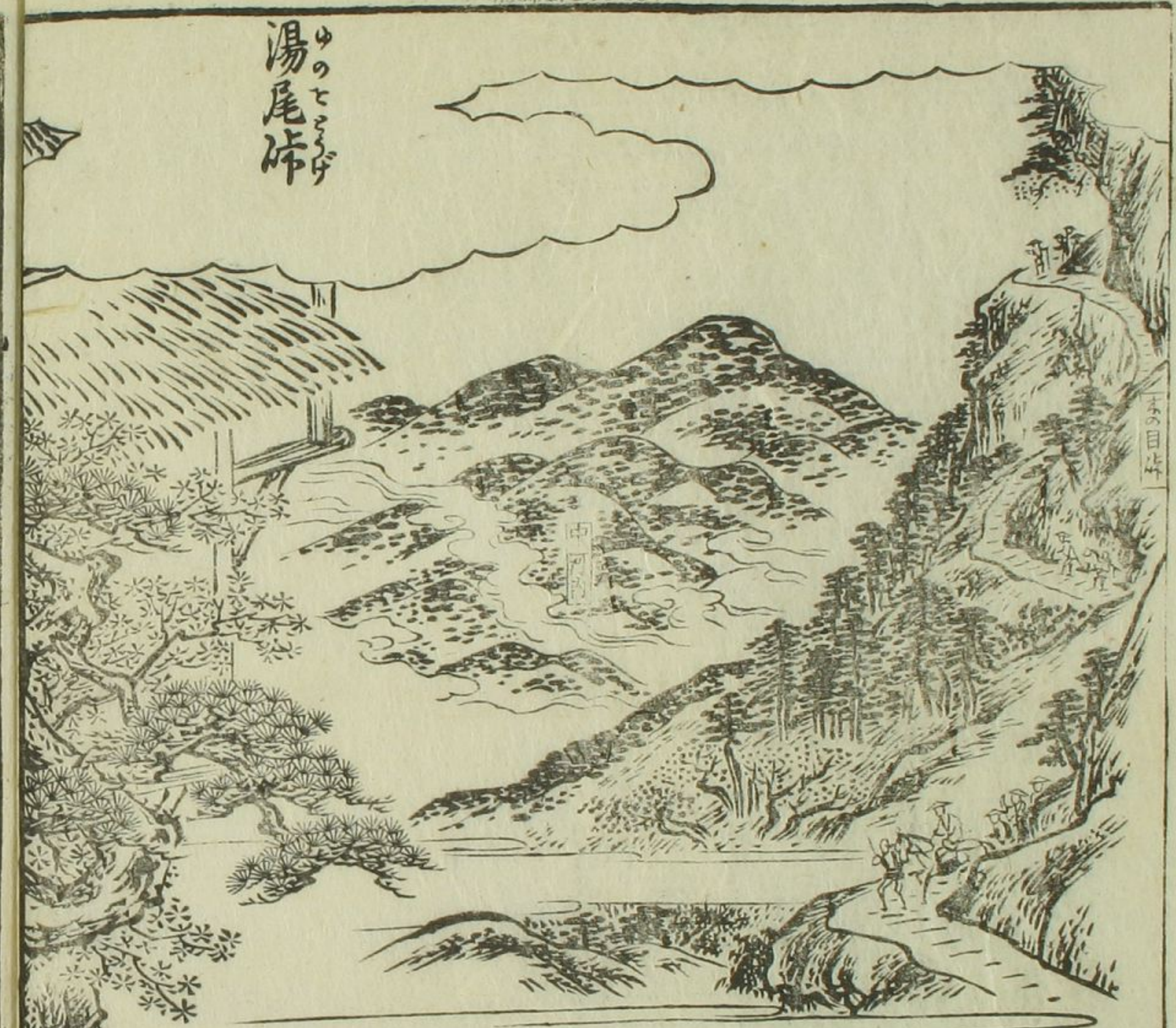








湯尾砦



かろのや高田流は合併し本教寺流と戦ふは落しぬ安し終に
本教寺の門敷大は怒りけし細いし富樫女こそ我宗門の法欵
られしういひせしとて郷民を忽一揆と企て加賀國のまじり
能登城中の門後凡二万余り長身二年富樫女が居城を押寄せ
後とまうて命と捨る者うろろ富樫女防ぐをたぬ城は機は史を
うけ自害してこひより一揆を勝たし能登國を攻て能登高山修
理をまて遊ひ其の破竹の勢いして城中とて切を忽城を破れんと
其勢九て六力斗をく一とて殺虫して雲霞のぞく押寄せし付城
をの國を朝倉輝正は備門射真系元来達如上人とて自害し自身
那とありて老傍の御堂と管じしより内企をす大さ小怒りさう一揆
多分付殺せしとて合身小右即花備門教系と首として家臣系波を
備門城を民部懸上田中村右川右衛門其外國中の軍勢を備一集め
都合二万余余勢九改龍河の川岸に陣を敷く後さば支一我りせむ
とてきて結うけしう係るを一揆の六軍六万余り能登と備して中角
の流へ押寄せしとて雄の若若馬とひくく川中へお入漲るあ
と一文をた流し財財の流とつる大別の荒法陣軍威の後をよ給
後指物に給殺の馬と踊せ美先を進とて朝倉が勇長山崎長門
守をよとてししき一揆系が飛勢ういひやみ並と見せしつとて

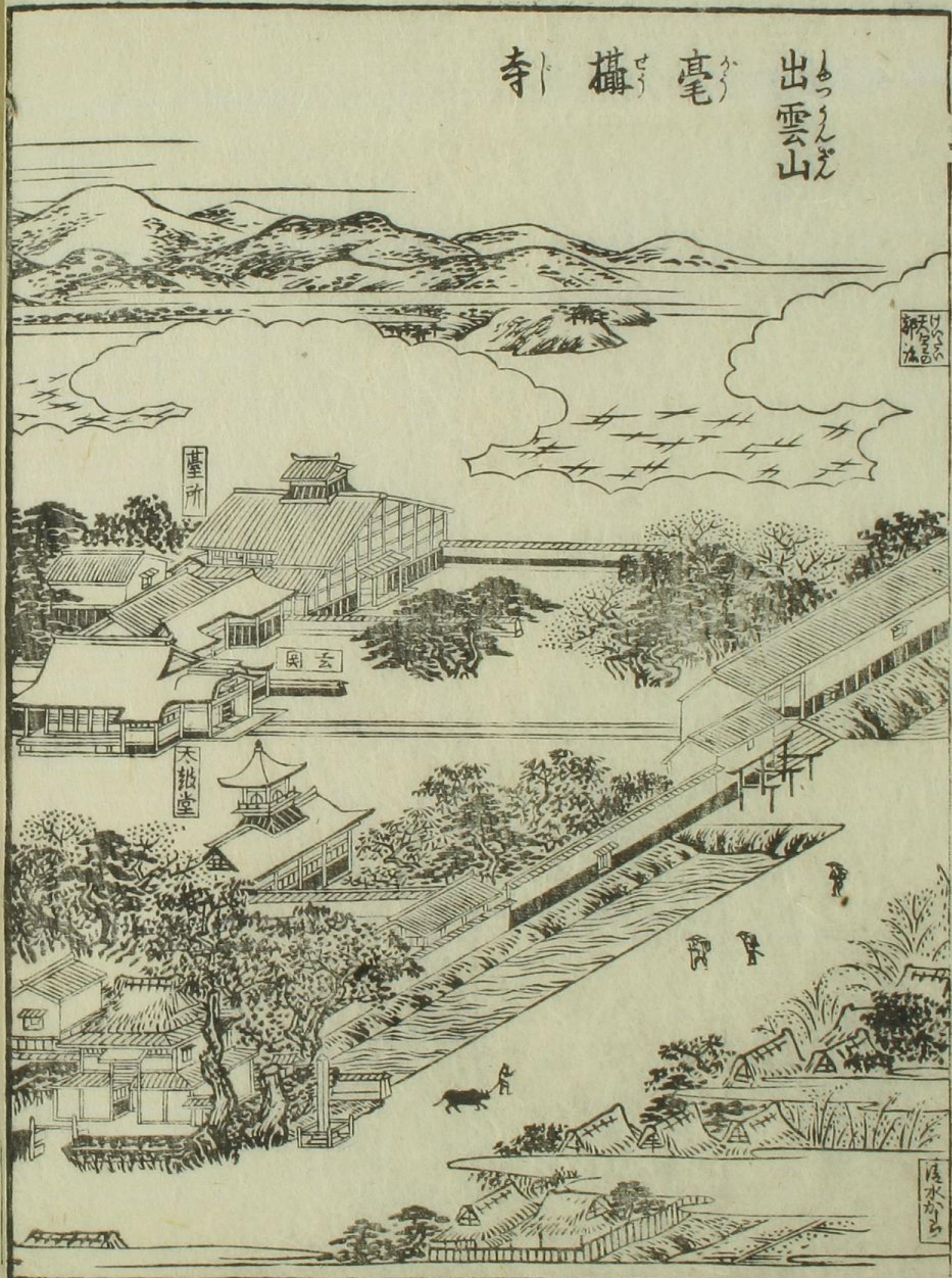
ぬのまうり三尺とて大ぬの槍刺とては母川と噴ひて突入しう
正元より毎双のゆきとて大長刀とてつてつてつてつてつてつて
教花徹巻とて我いーがうじしうろろ長刀流元よりおろ
ひるむ不流と流はうかじと綿織りもふきと一洗は美遠一近考て
首とえしう一揆の大軍たの切とる勢とて今今日乃我の墓に
とて不流とてあし裏流とて逃出れ朝倉真系味方をし知して
とてあし美先は馬と出せし流はしし流はしし流はしし流はしし
村雲とて大欵と九改龍河へ逃流しは美先は名美先とてつてつて
とて一揆のつられに逃し合身兵もろ熱流とて小ぬか加賀國一
つれ動流の起りうろ流達如上人流とて悲し流は流はとてつて
へしう流は流はしし流はしし流はしし流はしし流はしし流はしし
とて流はしし流はしし流はしし流はしし流はしし流はしし流はしし
○湯尾流はしし流はしし流はしし流はしし流はしし流はしし流はしし
をよしし流はしし流はしし流はしし流はしし流はしし流はしし流はしし

出雲山毫攝寺

今三郡清水改あり狐州渡門後に幸山の内一本山

開祖と親鸞聖人して創建開基の乗専大徳の乗専大徳の向

丹波國ありて佛心宗を修し六人部乃邑は妙い終ひたり其



名高く海内は郷者よりされども難妙のさうがうたるを健知して
速又易妙の大道の心ざし真宗の帰依し高祖聖人の法流し
入法なり 兼専大徳としついで 始々丹州六人部は毫攝寺を用きまう都
出雲路は後々再真ありて終に當園の基趾と用き終るとかんばは
慕飯僧詞釈の 一説又吾意上人と法脈乃用基と云へり 未詳

○金堂九間に面奉尊阿弥陀如来 聖徳皇の御地也 ○本堂十三間に面 高祖聖人の真像を奉 當山靈宝教品ありこれと畧し

出雲山陽願寺

西流 法水改より一里余府中より

正開房善鎮の用基ありて本堂十三間に面聖人御自畫の真
教を安んじ文明三年遠如上人釈衣下向の耐毫攝寺の當
住正開房善鎮遠上人の皈依し廣瀬村岩崎と云ふ所一寺を
建立せり遠師其寺を湯敷寺と号せり終に其後弟三代善

海房の耐府中の燃る本紀修守降依より門を今地又堂
宇と後以て之り什室これを畧し

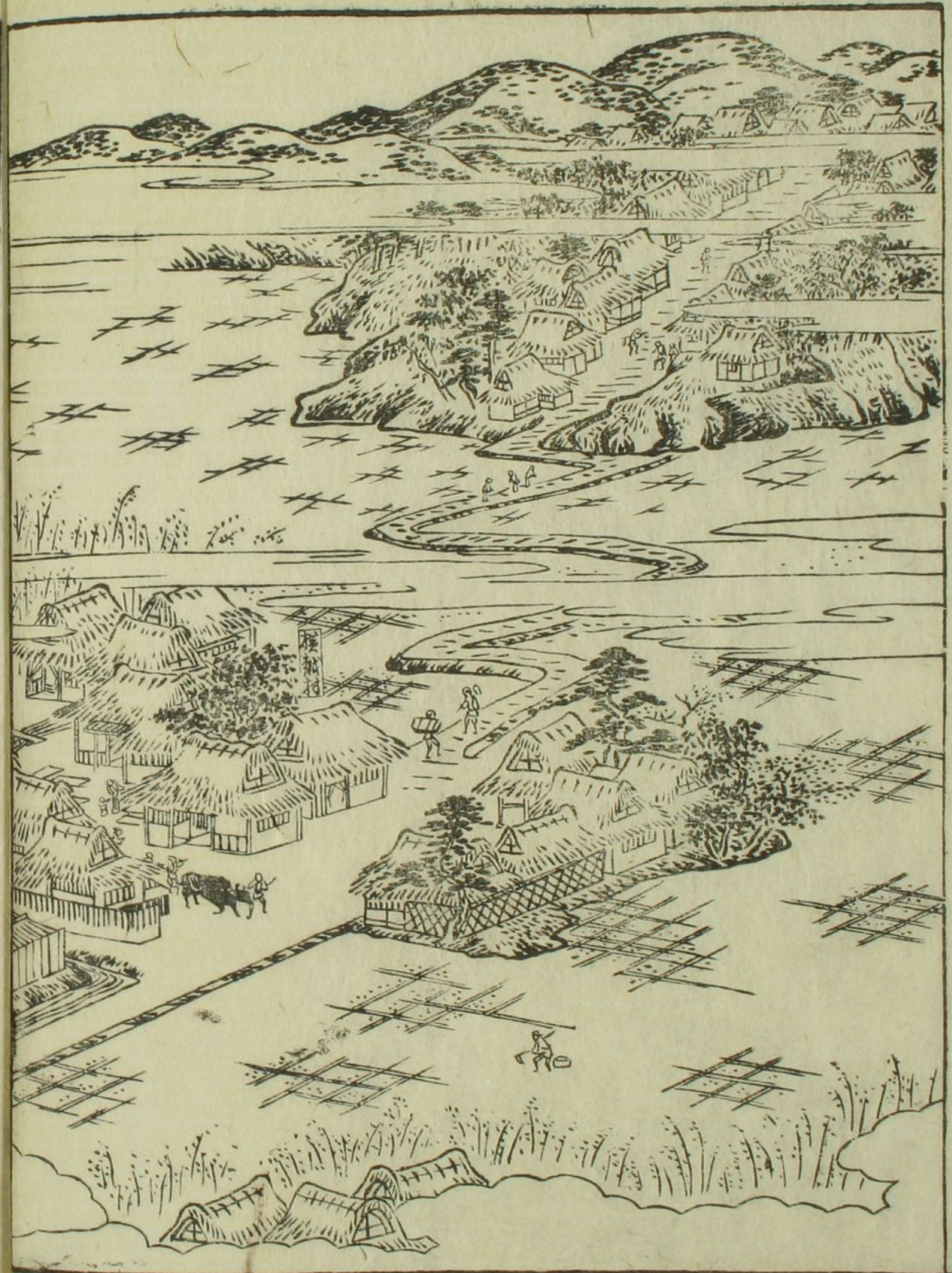
山元山證識寺

法水改より一里余至郡 横城あり法念流と号く 城系瀬門後に本山のうら一かふなり

開祖親鸞聖人開闢の遠流より本堂十三間に面奉無量壽
佛の靈佛より奇瑞不思議の尊像あり又高祖聖人御自刻の
像を安んじ 先明本聖人の御尊 其外靈宝教品あり

開山聖人花遷の耐城系の群俗山元と云ふ所一寺と建立し
聖人を法し奉り多し聖人即安んじ入らせ終に勅化利生を
其後長壽上人素院乃門を門下と化養し終に續て奥州大
綱乃淨如大徳け佛圖と再真し奉り 禁延より山元山院
寺と勅号と揚りそれより相次で今に法脈相承せり 後在の親鸞 後唯接一人

えんえん
山元山
證誠寺



山元山
證誠寺
勅号を
賜ふ



○世傳曰高祖聖人祇後へ所下向の付當國大所とてふに如道とて人
 多徳の僧ありて聖人又得たりなり申法法法して所弟子とあり
 力門を専修志佛と弘む其高三ヶ寺と別もて鶴江滋照寺
 中世專照寺撰誠澄滋寺これ之を三門後と稱はるるなり右
 傳記の異説後學これを正せ

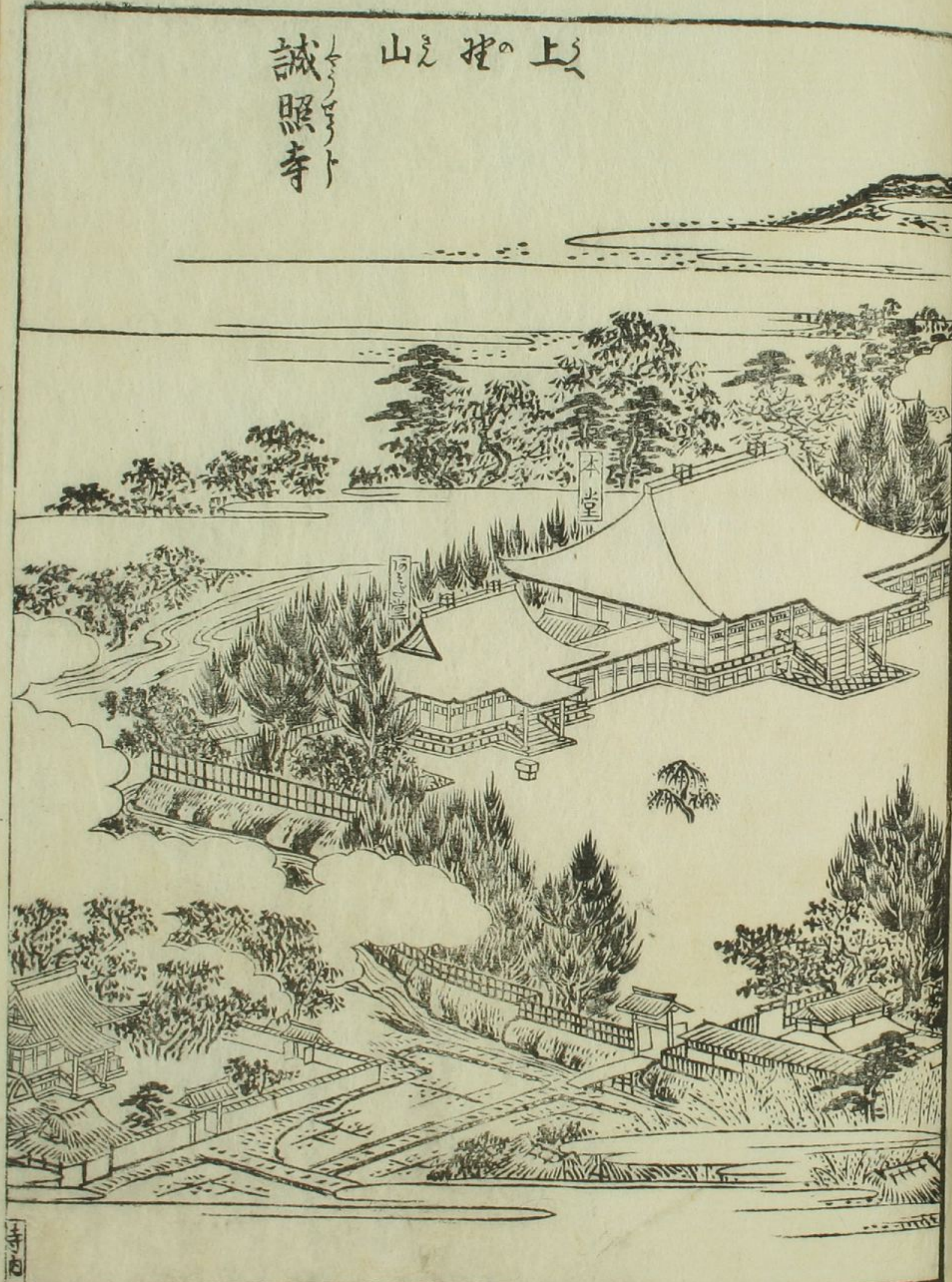
○此の方より愛宕山あり向尾女川取後一なり右乃方の山源を凡生と
 する即凡生刺窟を居住せしとてあり

上野山誠照寺

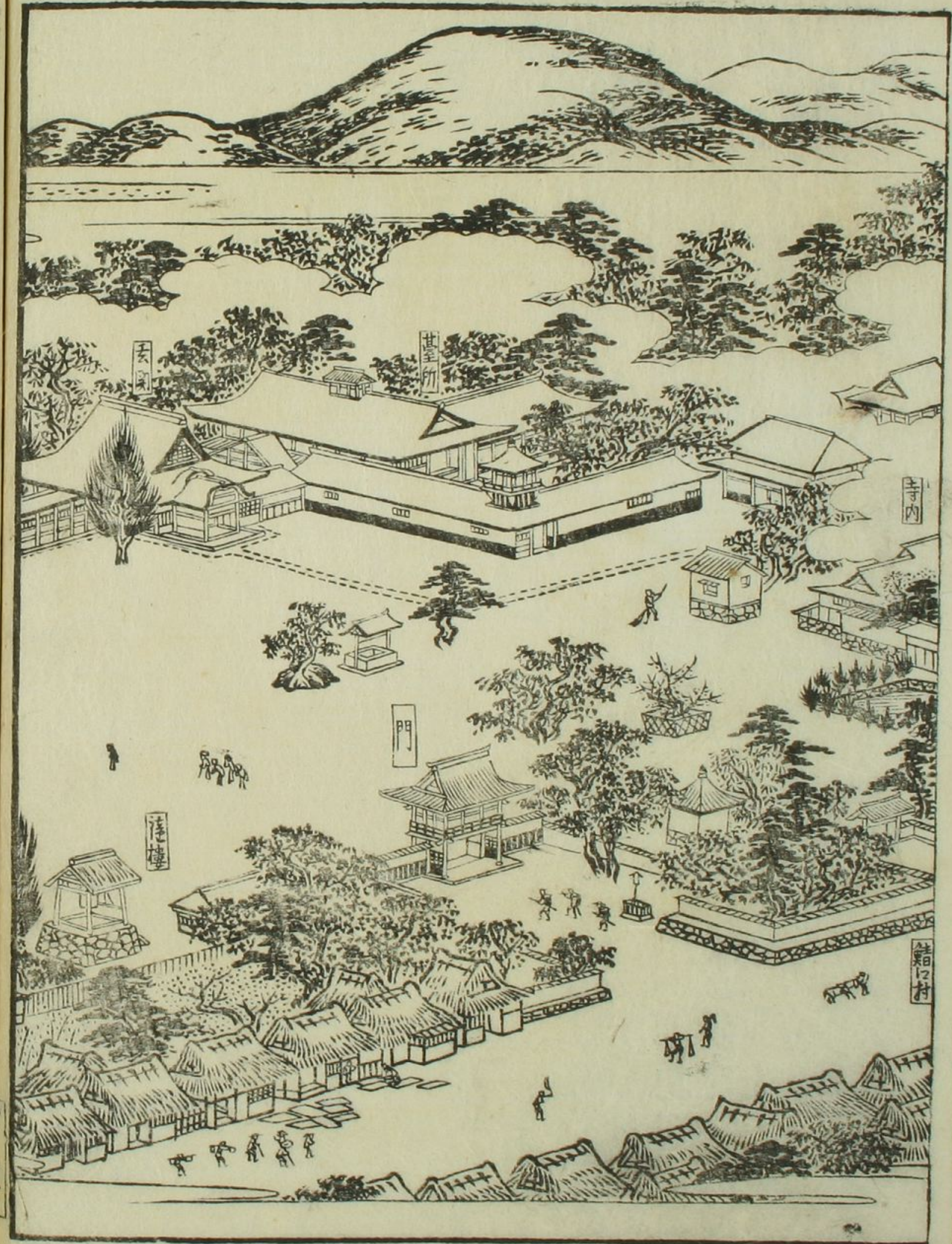
撰誠より十三 撰誠よりあり 撰誠よりあり 撰誠よりあり

寺勢權僧正本堂九間に面本尊圖後檀令引阿弥陀如来
 を安とて又如覺上人の像あり所勅堂十六間に面
 三區○開祖親鸞聖人創建開基如覺上人也當山開闢高祖聖
 人所在世の初當地は波多野和泉守系妙とてふ者あり聖人
 と深く信仰せり則招請して申法法喜法々以終て所門後
 とはありぬ安とて聖人の孫身道性大徳と法し我女と結

上ノ理の山
誠照寺



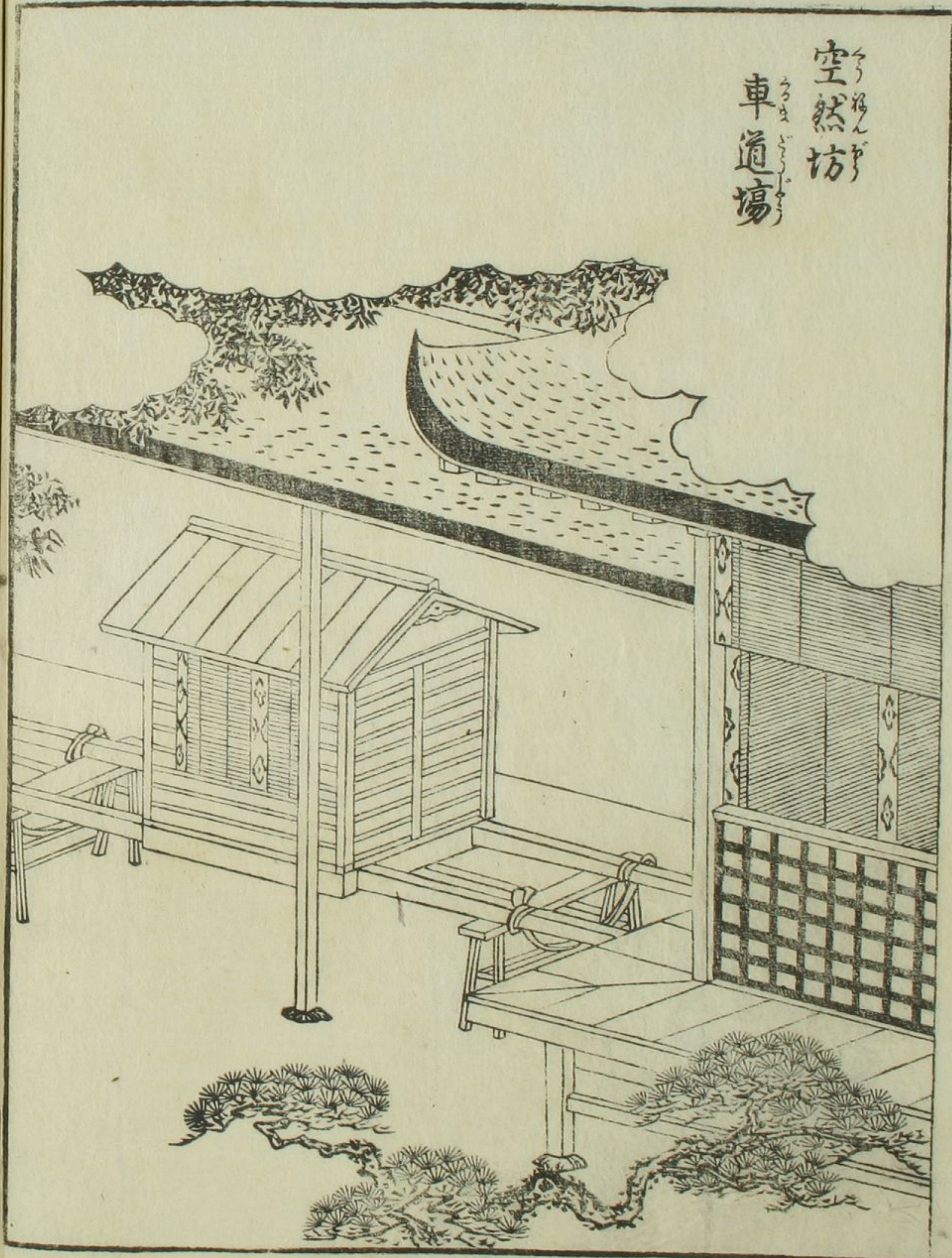
寺内



箱付



空然坊
車道場



仕せしむ其生る息男如覺上人也高祖化蓋の勝地と云り此
て基趾を用ひ造らんとぞ 嵩山乃傳ふ云往昔嵩國上社の
飲至秦右系遠景之元久二年に月七日の夜靈夢と感じ上洛
去く親鸞聖人の御弟子とあり空持と号し志する小聖人誠後へ
元遷乃御空持入道兼て新殿を營て聖人と傳へて居
聖人愛み教日深固して教化せらるるに誠後へ下向し法
ぬ空持房此新殿を聖人の輿車と止め終る不わん車の道場と
号して是と号する法流大に繁流して國郡を充て聖人御持法
後即聖人の御息男又男有房と稱して是と道姓上人と稱
空持房の息女と嫁して車の道場を住持せしむ其息を松書と
号けしが弘長二年の初冬上洛せしむ聖人の真弟と號し法名
と如覺と号せりけ如覺上人嘉元三年春内にて後二條院より津

去真宗後門後と勅号と賜り其後水尾院勅所とあり終る
上社山滋照寺と勅書と賜り當山境内寺社の御朱印あり後
大僧正に任ぜり是上洛の毎み春内にて云云。誠後國にケの本寺
とあり。清水院高攝寺。横城澄徳寺。懸に滋照寺。福弁尊照
寺これとに本山と号くいづも親鸞聖人の法脈にして真宗相
承の靈院なり

○懸江と清水の向ふ高祖聖人の御真弟の御教と云
高田山法雲寺 東流 懸江より西里足利郡 大味浦あり

法雲寺の高祖聖人の上足真弟尊室大徳嵩國懸坂と云ふ
下向して教導し終るの遠徳と云ふ小真佛上人の御門弟三州
和田の園若大徳の弟又如道法師嵩國大町乃車屋道場と云ふ
ふ在て教化せらるる彼懸坂乃尊菴とけ車屋道場と稱して大町

專修寺と号し應長元年八月の以覺如上人當國所下向の如
如道法師覺如上人より教外信法乃傳授を授り養法化整ん
其後蓮如上人當國吉修乃御主任在はしつる耐專修寺兵火のおよ
回流せり其後又月國風尾乃再建せりが是又退賜よ及びぬ再三今
け大味浦に祀りして法雲寺と改号しと云
あはれ聖人河自國信法乃所
繼と稱とるあり當り舟の舟
りてこれと聖人おはせり
傳りたまふことろかり

○如道法師の傳異説區々之聖人の真身之とつひ又三州和田の
赤岩大徳の門弟なりとつひ傳へ奉る道場の子經江瀧野
寺の發端之とも傳流以何とる是るるを知らず

箕手山法光寺 大味浦より六里岩倉より

當寺の真宗相承乃一本山勢州一身田高田專修寺門法の
末寺也依く本三郎光實入道法善房造之の寺なりとつり

橋宗賢

福舟橋立真宗寺日系乃寺なりと云○什室より高祖聖人の
御本像○上宮を子御本像○奉迎如來惠心傍
都府寺

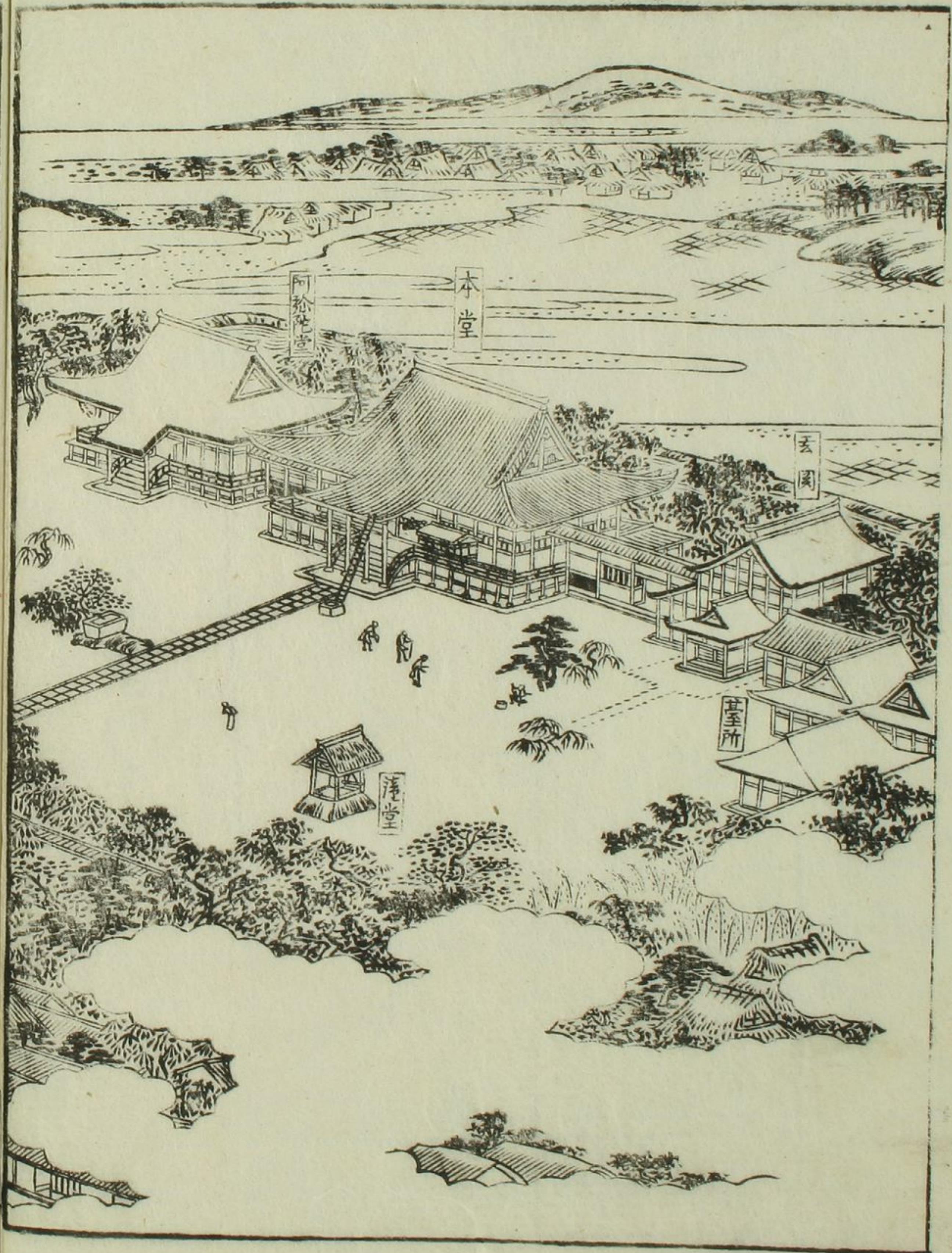
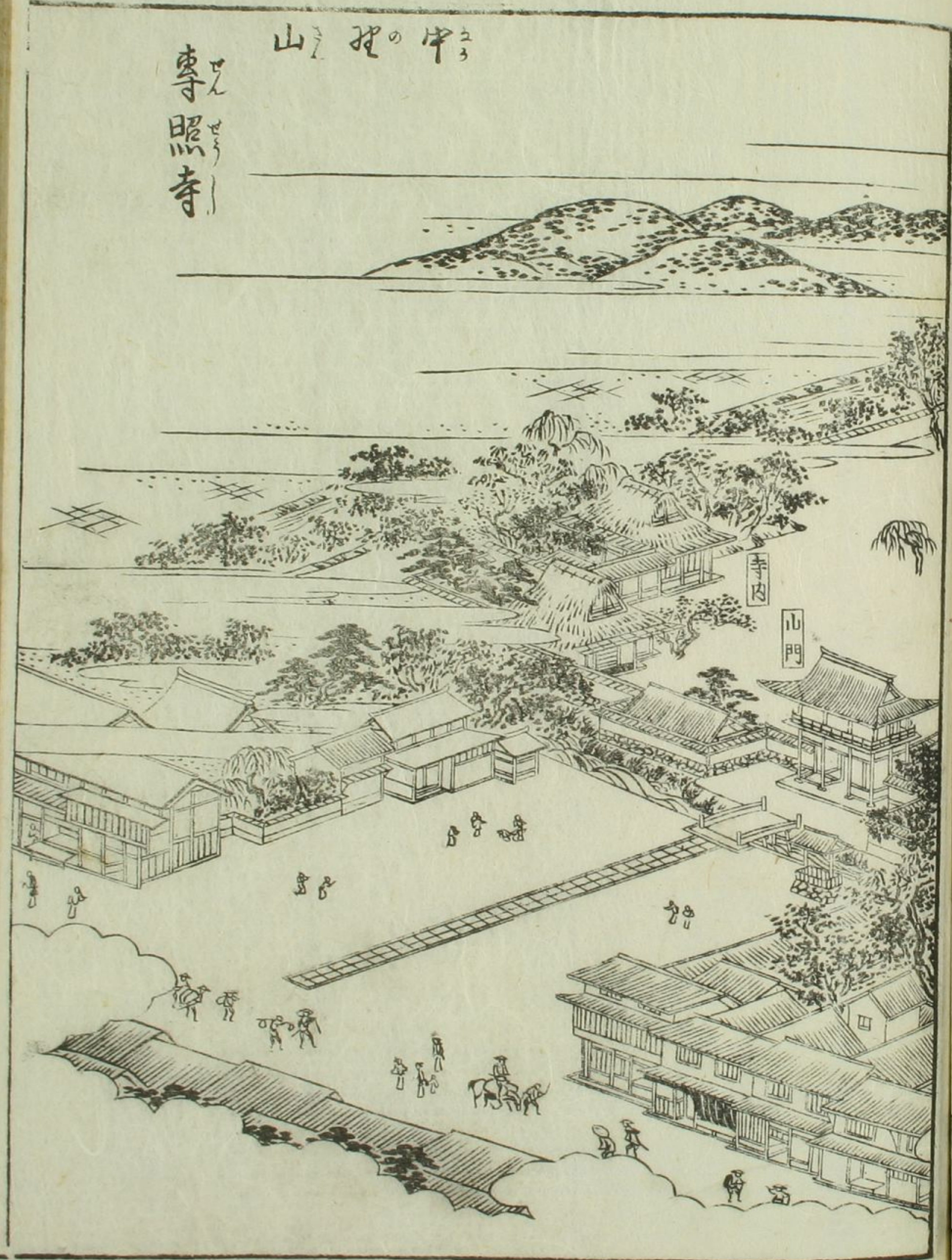
け御日跡在家よりとつり其姓氏正しく先祖の聖武皇帝
の皇子橋諸兄云乃正統也故み禁延より醫藥の倫有と賜ふ
とつり養元元年三月親鸞聖人被後へ在遷せりとたまふ
御附此家より寄居在はして御教化を多ふるに改依仰の余り
御弟子とありて法名成了若と賜り御真像餘陀乃畫像と
授ふり後其外法物三又種今猶傳承せりつり一は橋屋
三郎花房門つひに九倍の家として六百余年退將なく相
續とるつひとみ難○室物には餘陀佛の畫像聖人の御真像
老州の門に十八
神の化佛各蓮座あり如信上人覺如
上人練如上人當國所をたたまふ ○十字名号 聖人の
御真像 ○記念名号 一は



楠宗賢が宅に
聖人孫陀佛の
像と字一巻を



山中の理山
照寺



名号 蓮如上人 ○實如上人の御書

中野山專照寺 日所福寺本回町あり

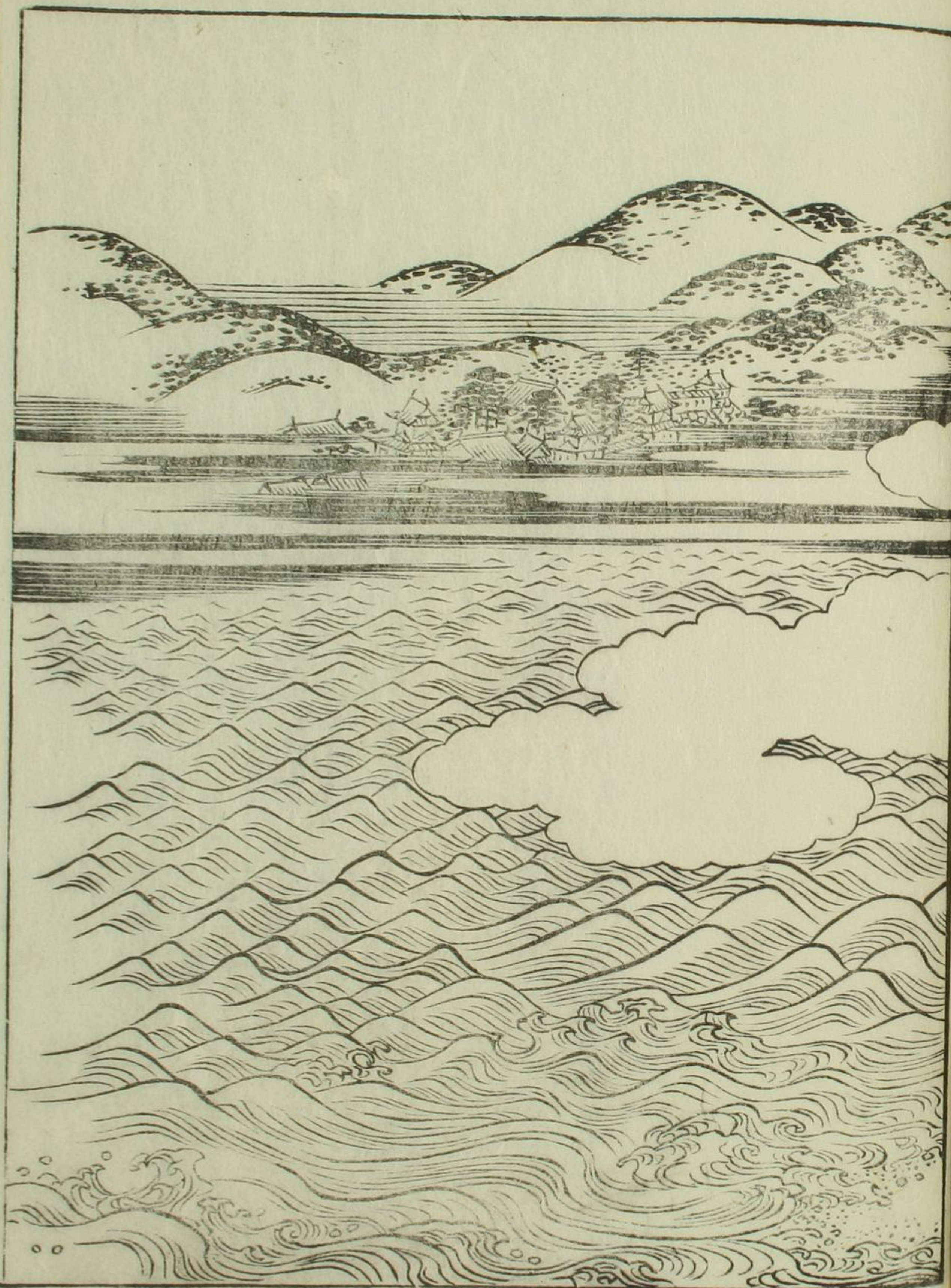
當寺も又然るに本山乃内真宗相承の一本寺也本寺七間御
教堂十二間本尊阿彌陀佛のる像の春日乃他はして不謂如道
大徳の開闢也靈湯也亦記とてく初めり大町とてふ不車
昼道場とてふあり如道上人安んじて教化をなすより人皆
大町乃如道大徳と稱せしとや彼車昼道場の事既も亦記
と○靈像の高祖聖人御真教○法然上人の御本像○如道上
人の本像あり

橋立昌向山真宗寺

西流 院家 日所福寺あり

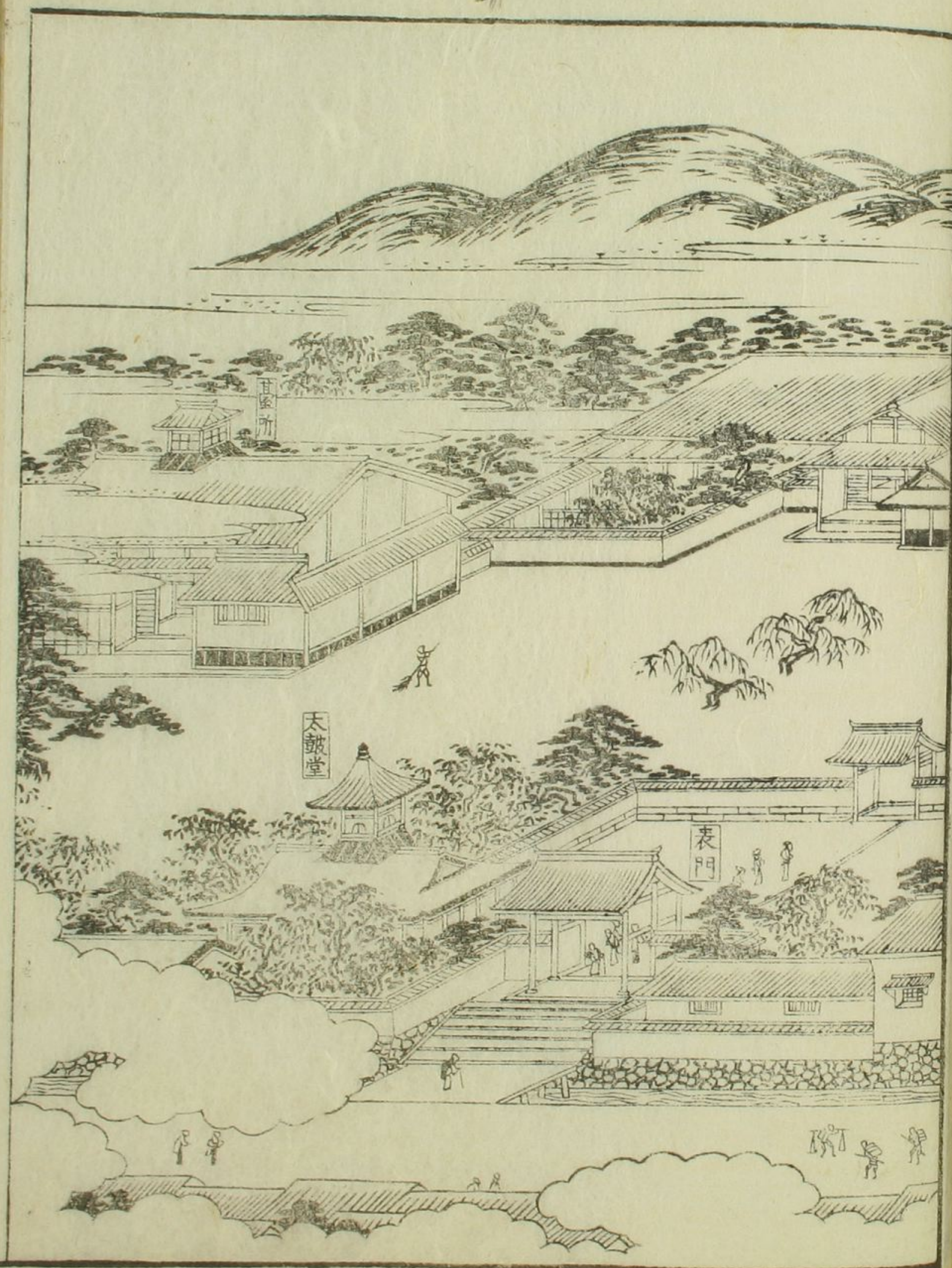
當寺の住持依く本三郎盛綱祖師聖人の御弟子とありて
開闢ありしなり本堂十間日面本尊阿彌陀如来の聖人の

御真像○柳依く本三郎盛綱の人王五十九代宇多天皇の
後亂近江の源氏依く本源亮秀義の三男也勇猛強壯にして
万ま不富乃武士とてみろく元暦文治の以武治源頼朝御の幕
下は後い舎方に即高綱と依く本曾と退討して平家を亡く
名海内又善く就中なる綱とて治の早瀬乃先陣又其名を
「盛綱」西海屋戸の波とて先詰して英名と源平両陣の
中又輝く終に源氏一統の世とありし後盛綱今もや衰老
の身とありて去来の事とてふみ実又盛んありし平家二十余
年の栄花も只一睡の夢とあり今又源氏世に夢みて榮と
極むとて人も飛鳥川の瀬瀬定めありしれ予も壯ん
たる時の鬼神とも歎き大山も勝くぞれ勢ひはしむ衰老乃
今もありて眼を遠く望し力と杖と偕の外はし出息入息不



侍命終今も命終に地獄に墮せんや必死する時味いし
て後の世の苦と免んやと昼夜を悲に歎きつれ善
知識のつづかぬ法の能く教ふる迷いの苦と免んものともい
けてあつるが盛綱宿若の時と小あつるや親鸞聖人誠後
み夜にして弥陀の御教を弘通し終るべきを安及び直に彼國
又強き聖人み道しなり御教化と教ひやせしは聖人盛綱が
教記の心と書し石路と教ひ終るは汝れ世の時よ生きたるそ
ついなう若年乃若より衰老の今よあつるまゝ多くの人を救
罪業を脱する源を之地獄必定にして逃る期又あまづし終る
とも今阿弥陀佛の本願を汝れ五逆十惡の元と教ふを
終るが所の悲願をれが我れ乃罪源と願ひ只一心は佛の大
悲願を信しなり我後世の一大幸御助けの人と深く如來とれ

なまは弥陀佛に忽遍照の光明と放ち終るは汝が身と彼光
明の中み納めえて再び捨つる命終の期は終るでとやうふ
安樂淨土に迎へ終るが廣大不思議の佛慈と教せんが
あつるは餘念なく一心よりつづ稱名念佛して必命と期とを
おしゆりて終る幸あつるはとて異くと御教化終るは
くれが盛綱忽歎法乃汝れむむ直に他力信心と安んじて終る
聖人の御弟子とあつる聖人則法名法法若坊先實と授け
終る其後法若坊出園橋立み一字と建立して真宗小寺と号
高祖聖人御真書十字名号とよへ終る今よけ名号と安ん
ととつり。一説は法若坊先實の依る本盛綱の玄孫あつる
依る本三郎先實なり御智坊の門弟とて出園又化淨橋立
み一字と建立し竟に正元元年七月二日寂滅とつりつり



是方よりを知りて 靈宝は高祖聖人御真像第十家存号
 上宮太子像 先実畫像 高祖聖人蓮如上人對座之

御歎

东本願寺御門跡御坊所 福井松平より

和回本覺寺 西流院家 日石より

本堂十間口面聖人御自畫の真教と安坐せり 高祖聖人
 の御直身親性房用基の舊守より多聖人御讓の法物等
 代々相傳の靈宝教品傳來せり 抑用基親性坊の俗姓は及東
 氏儀是ち赤郷の後流誠系刺史波多理出雲守義重の嫡男
 たり又義重ハ禪法と修飾して大佛院如是と号し其子親性
 とも又設法と修して出雲守座禪二家を業とし親性亦時教心と
 號し本末の跡院と悟らん心と凝して座禪しるる頻み



眼さして堪中しは爰も何れ現乃ごとくして達磨大師忽
 然と現ましく曰汝心と凝して座禪ととくも佛心と悟るる能
 りた却てそ妄念死ねとて速に妄明の眼とそん人とて親鸞
 聖人又陸後して易初の大道に入らんと告げんと見え驚き
 うり親性奇矣乃ちいとは親鸞聖人の化身と易なるふとい
 りひるるる聖人今誠の後州を去りて直に彼地よみて
 聖人よ濁り染む世餘陀羅世の悲願九支直入の玉粒飽を
 御教化又親り真の御弟子とありけり本覺寺と記されとて
 始め富國吉田郡和回とよみ不建立なるが後今の地に移住し
 一説曰富寺の覺如上人の御門三州和回の信性坊の遷居
 とて信性坊三州和回富寺坊の息なり
 ◎什室は高祖御自畫の御教。聖德皇御自他像。閑基

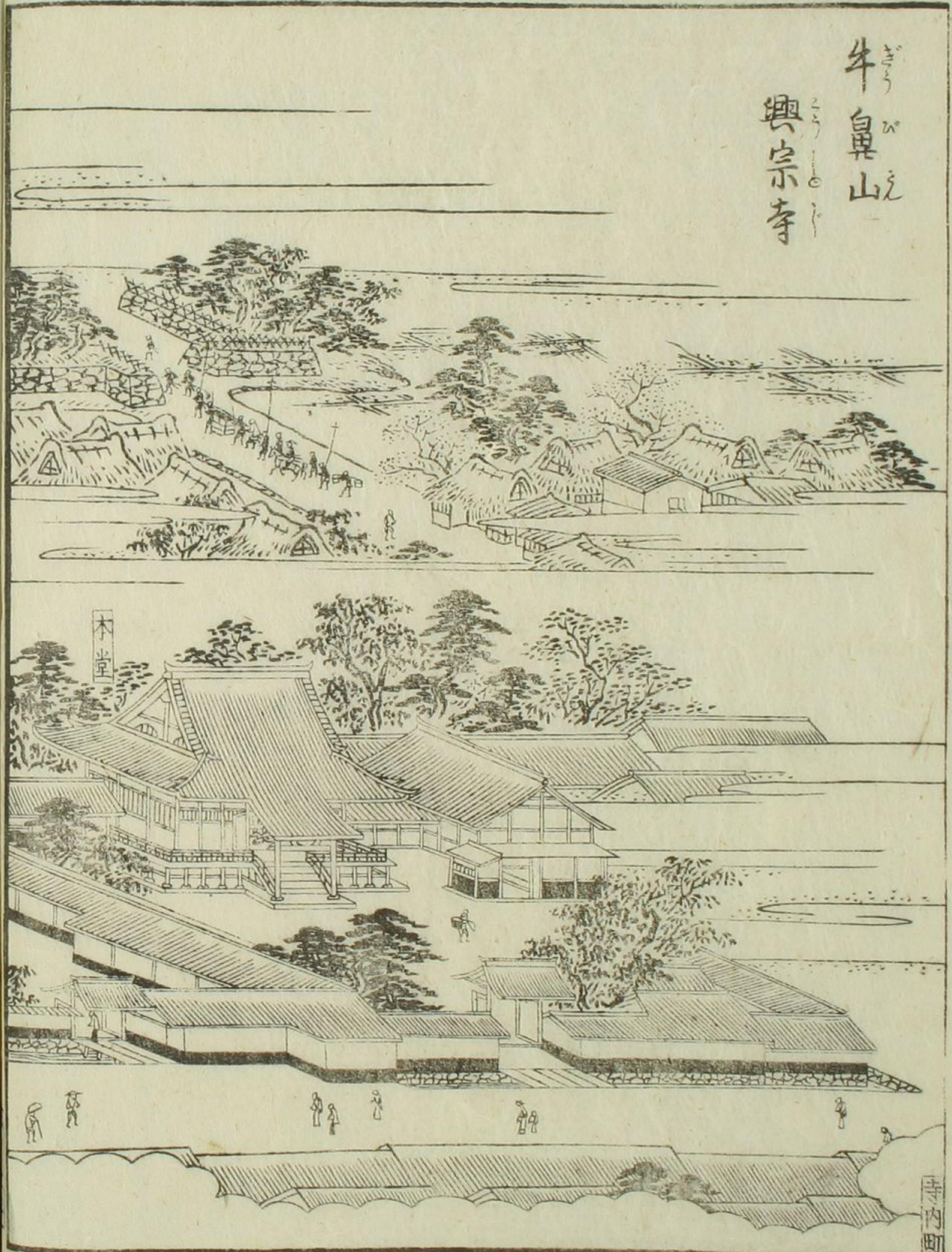
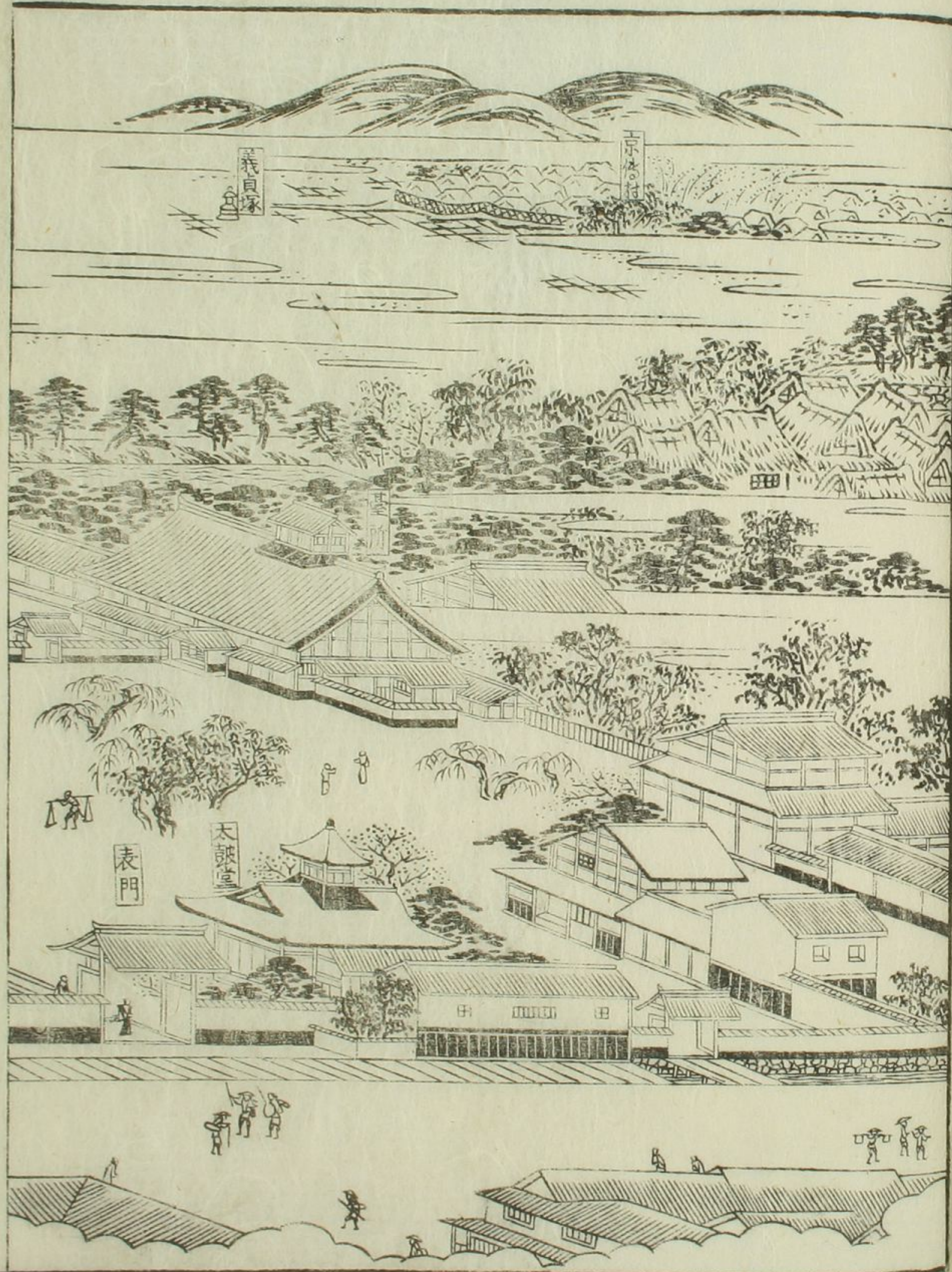
親性上人像。十字名号。聖人。法統上人御教。蓮師。蓮如上人
 御教。御自。九條御教。長沙。聖人。六高像。寂如上人。六字名号。蓮
 上人。渡唐天神畫像。御日。吾崎の御書。御日。蓮如上人御送
 言御書。三畏唯一心り掛地。寂如上人御書。吾子傳繪。閑基。高祖の
 真教。蓮如上人御書

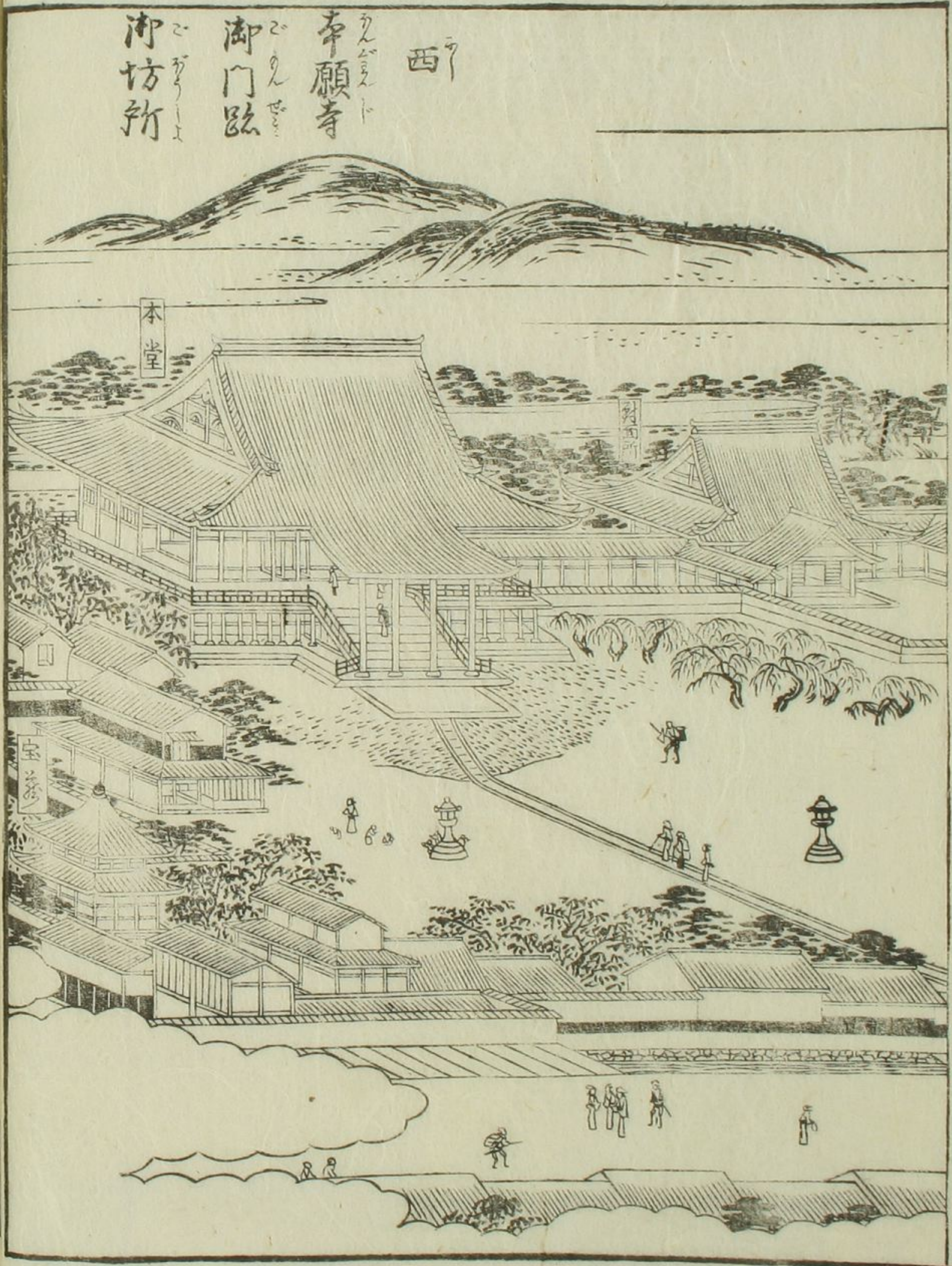
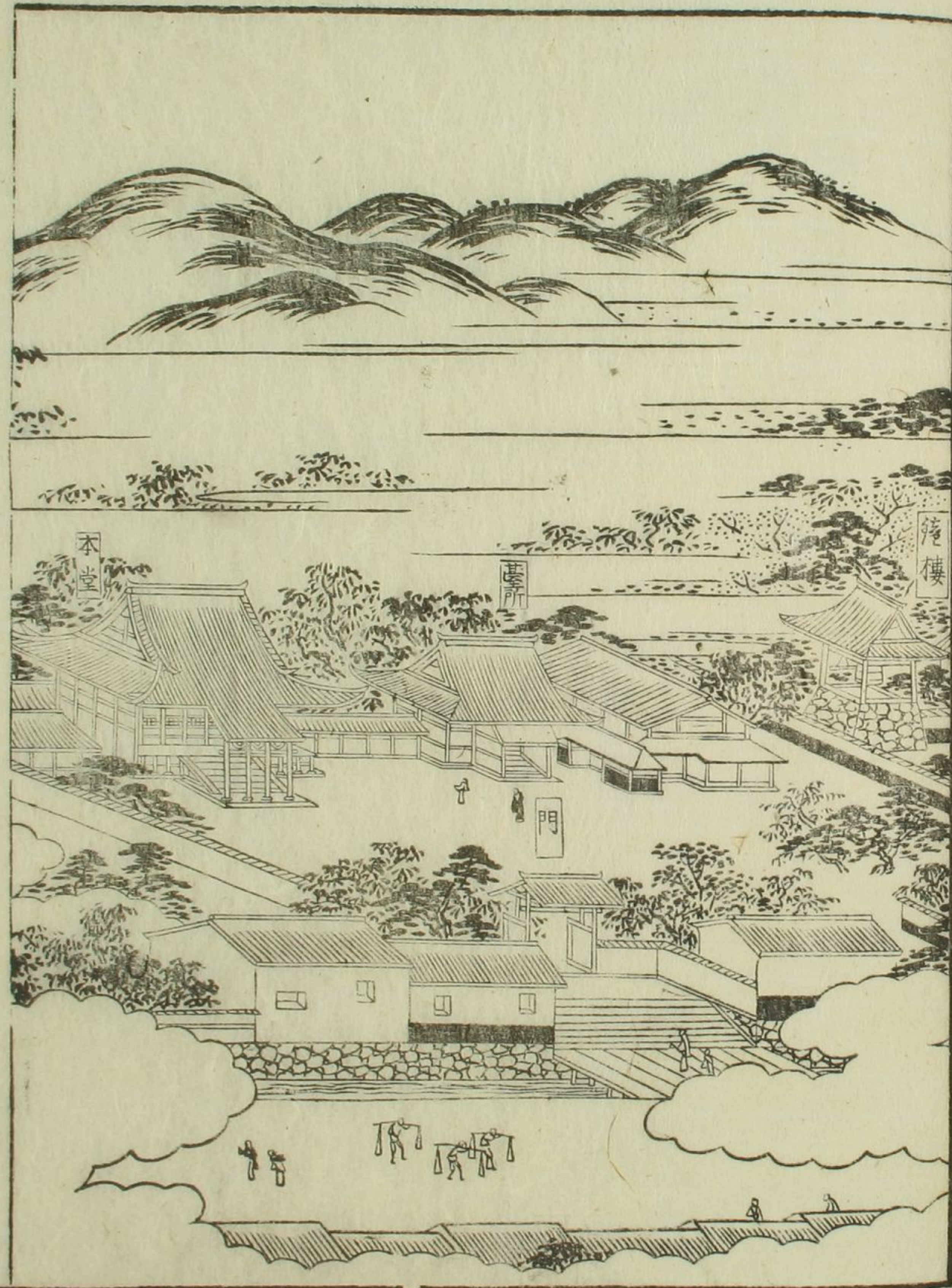
西本願寺御門跡御坊 日所

本堂十九間に面

牛鼻山興宗寺 西流 日所

本堂九間に面する如來の弘法大師の御他とて何れ覺如上人の
 門弟回轉の如法師の造立の寺也。慈願繪詞は覺如上人面
 受り門弟の列は如とあり傍に田嶋真宗寺と記せり。如
 如の祖師の直身とていつい佛の如法師の身を詳しと



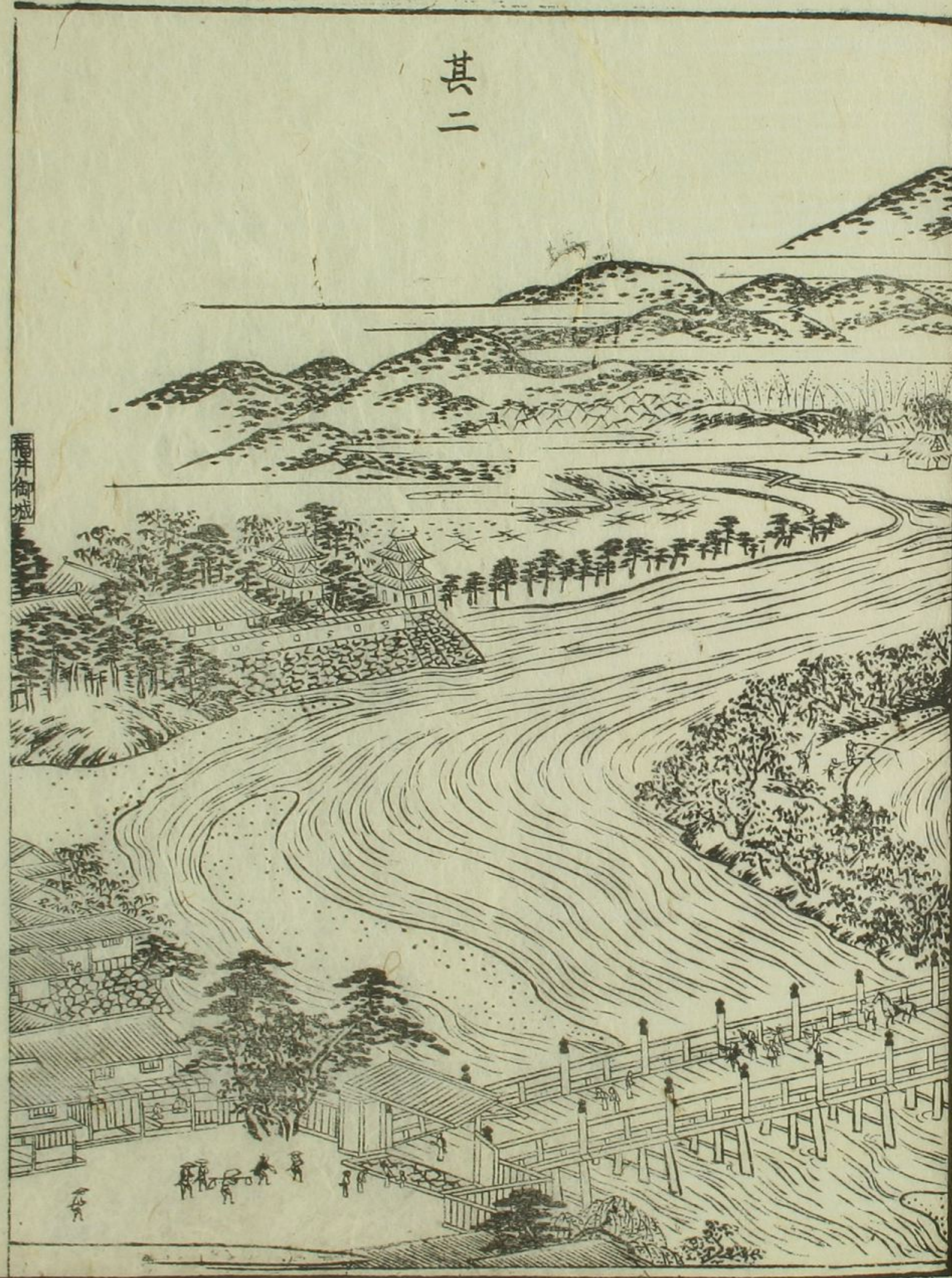


橋立
真宗寺



宗祖聖人御年八十歳及ばせ給ふ初は但馬國より京都在
 番乃武士あり小糸時政の玄孫小糸弥治郎宗之と号し
 在處の同聖人御教化と崇り終は御年九十とあり法名と号
 園と改む年いまだ二十六歳して若年よりとて之も且心憂二
 の信者あり聖人滅後猶希國より下向して弘法の基跡と用く
 長命にして九十余歳と保り猶は願寺分三代覺如上人為國
 みりり在園の中面湯しありこれ上人甚茲悦ありせ給ひ初
 園の法活祖師の直説をばせ給ふとて又如の一字とよんで初
 如と名つけさせ給ふとて又但馬の真宗寺と稱し○親鸞
 聖人蓮如上人蓮尊二尊教と安んじ即蓮如上人の真宗
 あり○名号仍如法師の本像あり其外靈宝田舎之
 ○九十九橋は橋の西中よりありは橋中より石にて作り
 向ふに本の橋あり実は石にて作りしき橋のさまは川時として
 流るる

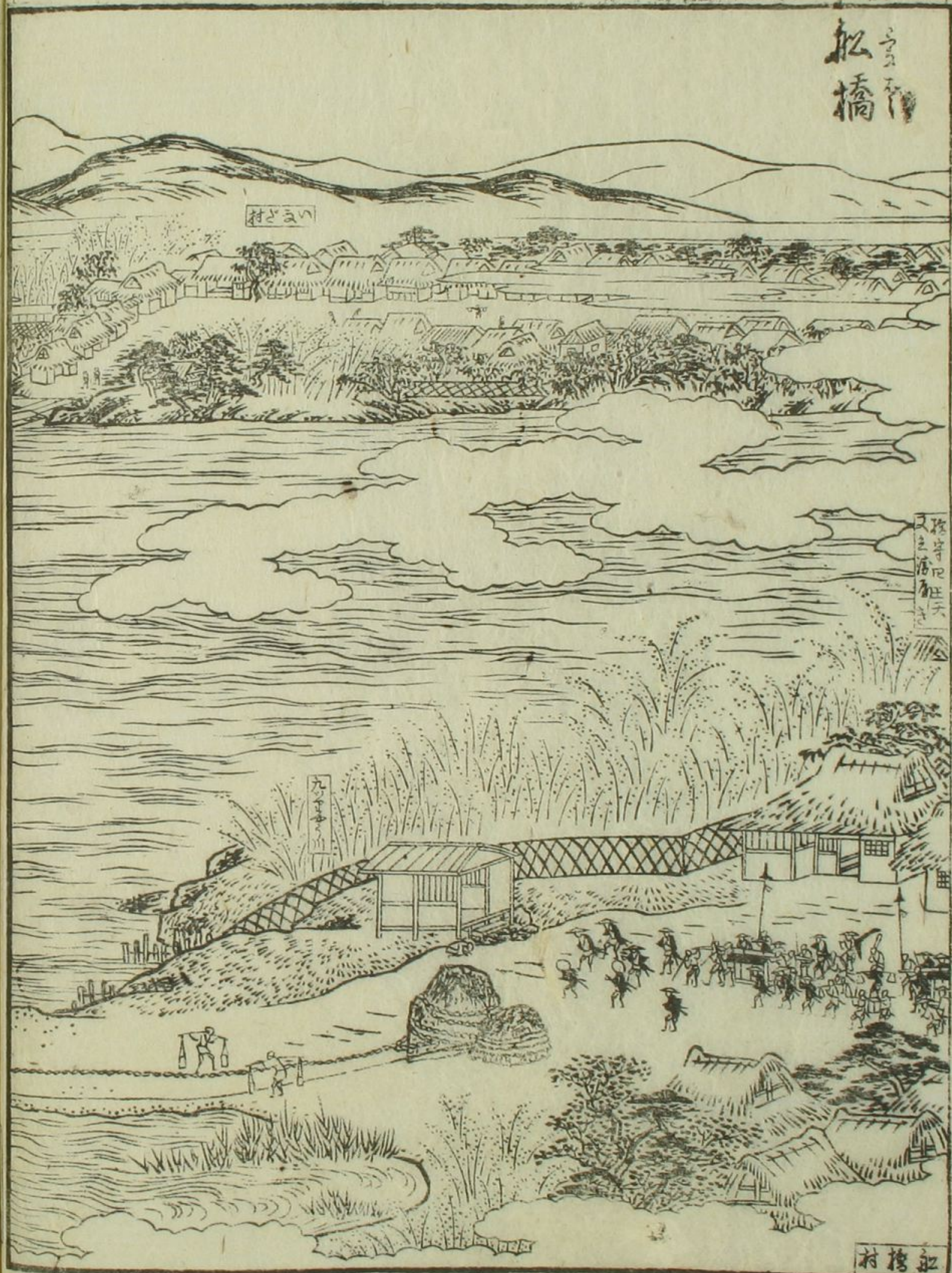
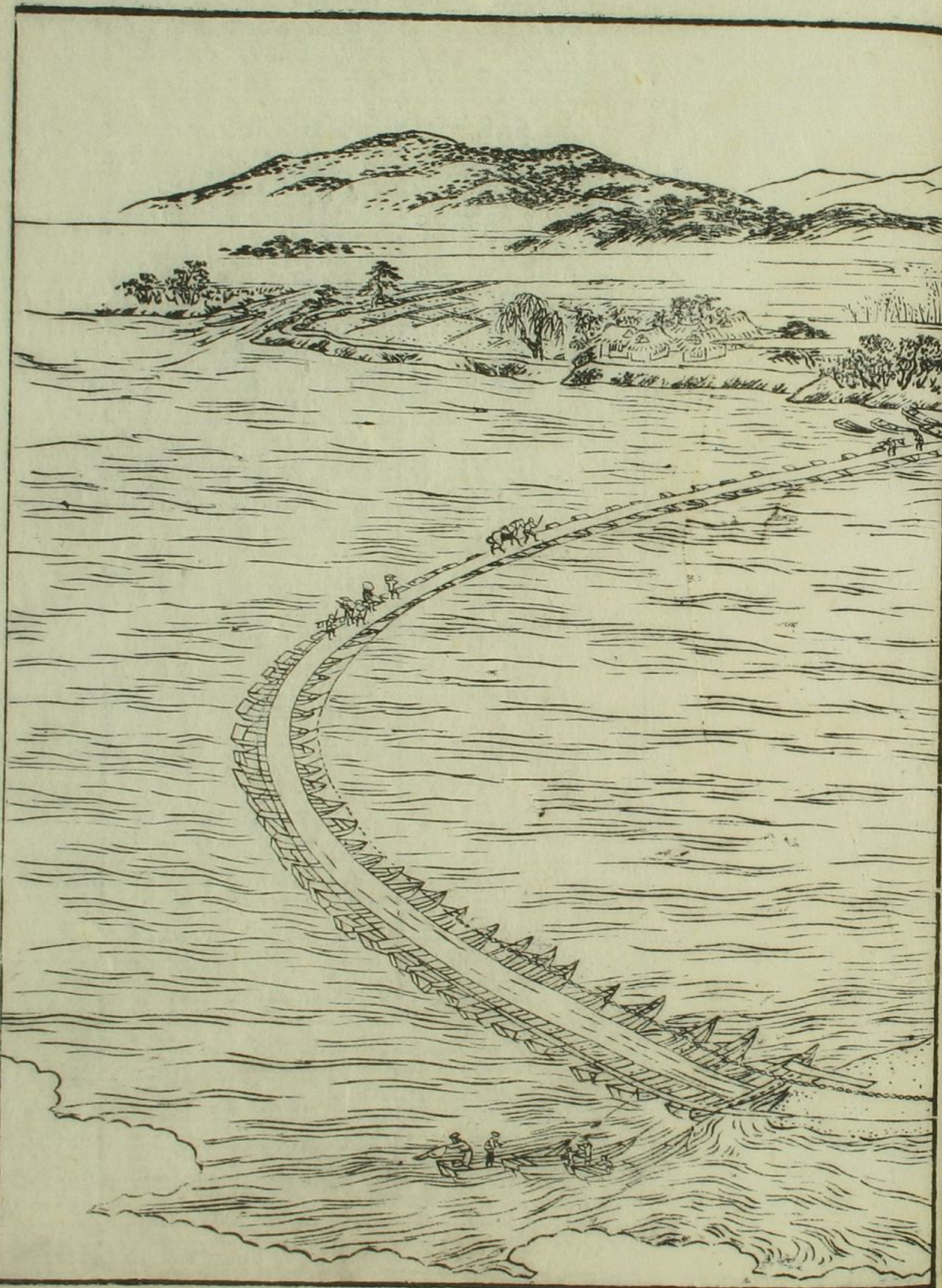
其二



福井御城



五九樓





跡 舊 濟 拓
柱 乃



親 齋 聖 人 黃 楊 御 舊 跡

終ひつるふ忽ち一夜のうちに根を生じ葉を茂く生ひ葉へより
とつひ仙人なり

細呂本鋸坂 橋舟より細呂本まで十里けりみ蓮如上人の所舊法川尻西光寺あり東河門流の院家あり

け所瓶茶加賀乃流方り祖師を遷りてせ終り時瓶茶の河門
後考け坂まで見送りなり既又別と有りつるふ聖人権者乃
河身よりと人も人々別とさせ終りつるふ河と流
がそくやとるん

音うましく流坂より引りて身乃り方りて終細呂本

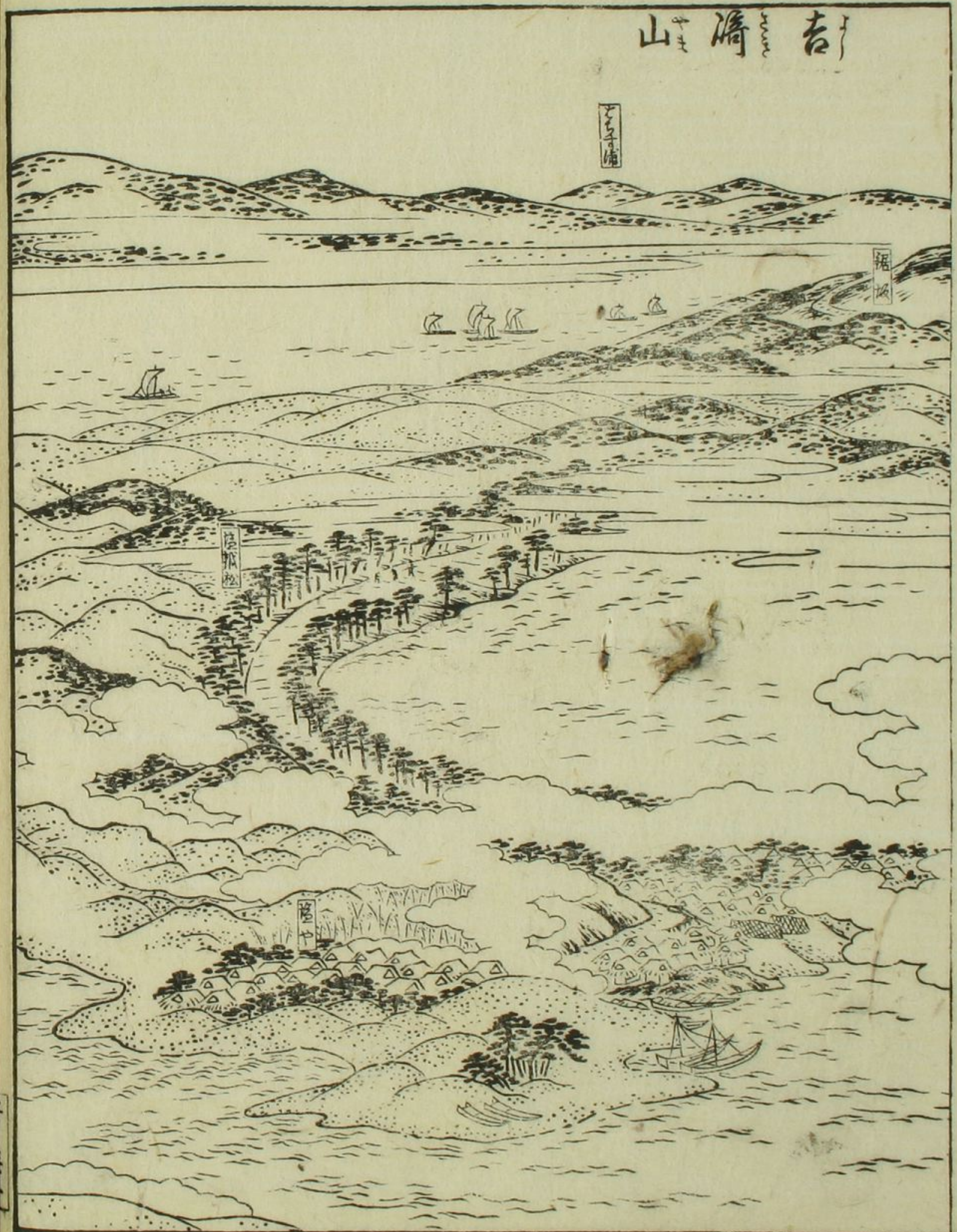
とらん詠く終ひつる舊跡あり

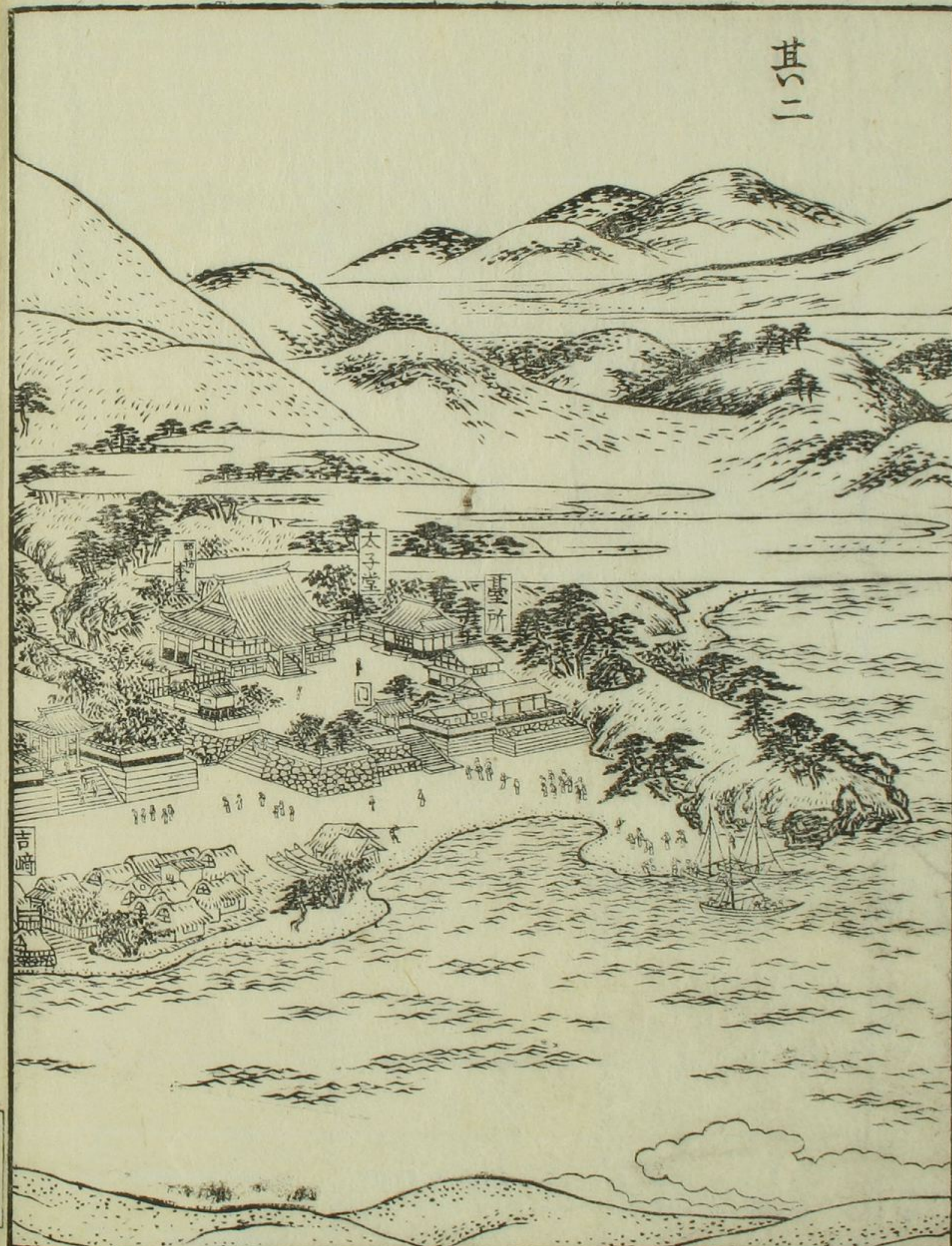
吉崎山

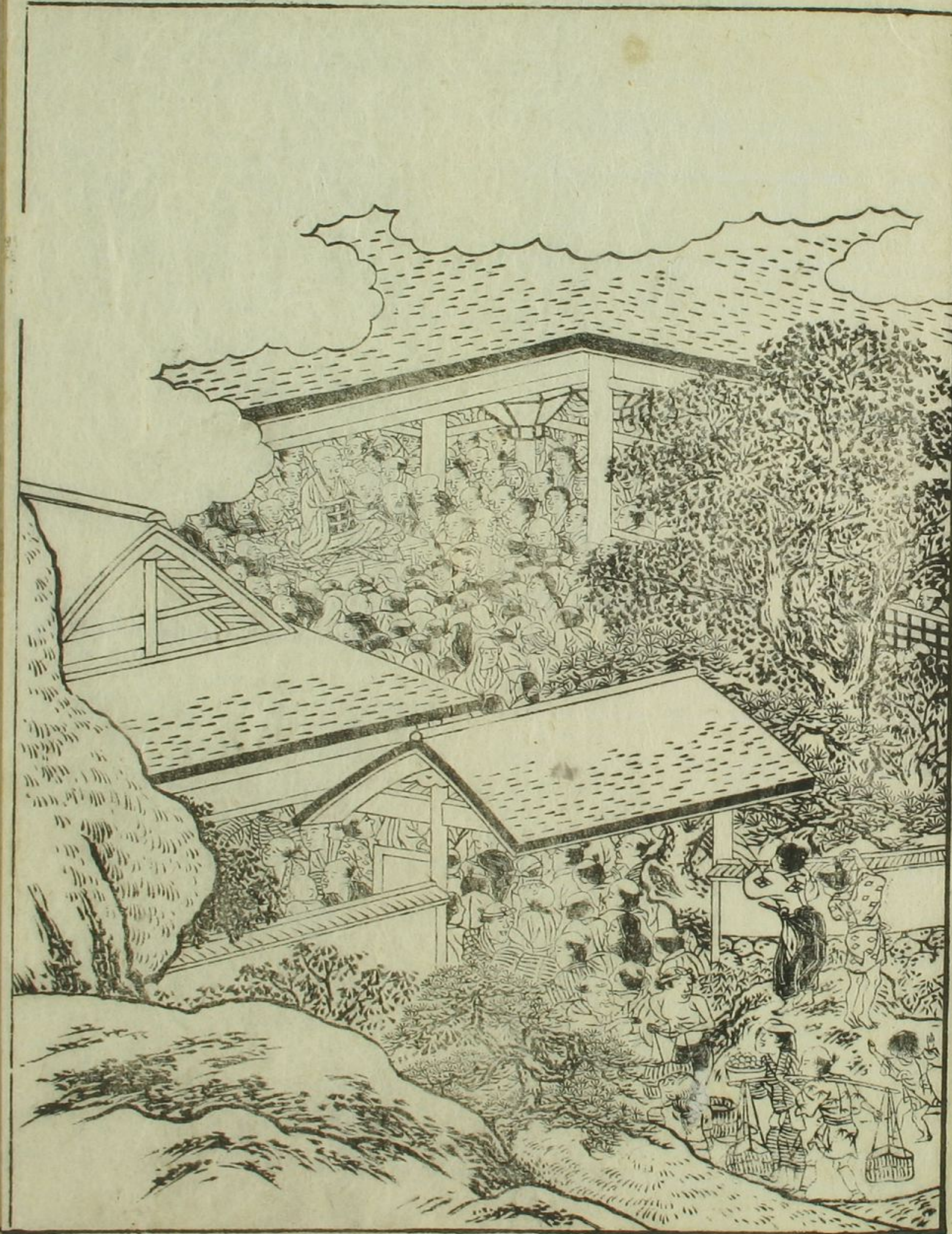
け山を中教寺河相兼代八舟信澄院殿蓮如上人文明三年
日月上旬遊園より向在りて河教化りてせ終り時園皇朝倉彈

正元湯門耐貞景瑞依る殿ありて大龍皇とあり即蓮降乃
用開く終ひつる河山なり則山の頂と右乃河堂流りて蓮
降自ら植終り松并に腰掛石あり

右傍の街道乃彈治はあつた山の方の海辺なり細呂本よりふ
流をたへ多瓶茶加賀乃流りて加賀の塩屋瓶茶三國の海濱へは出を
る極切りて屈曲する入海右傍の林麓とせり海よりは瓶の小流流
麻鶴の社と入る風系絶え絶えと河に及ぶをうり蓮如上人け地乃流
音多瓶茶終り終ひつるの河堂を造りて朝暮に化守はしくつるふ
遊園のつよよ及び加賀瓶茶中瓶後其外海と流祖と隔る遠
近の園より蓮降の教化よりありなりと老幼男女老若きも終
きりお祥てけ右傍より流りて小園乃りなりて白雪つと流り流り
て谷川理と流り塞き瓶と瓶と刻りてきを文と殿ありつる吉崎
の群集終りく半内之寺中より居余り雲雲小流し風雨よりお
ま化養のふときと我をを忘るる屋敷の界より群集しつるかつり
より小園七州の月には空より仙人ぬ舞舞之けけり室町義政公諸翁と流







蓮如上人
吉崎御坊
勅化一後

念慕を今に謀計を以て夫婦が信心とたまさんと審み心は巧と云り
以り文明に奉三月廿日の夕トと云や又惣括不用きて此日より出て
家に何れに毒の幕以すりの月より去るる若き一糸りより老母を
看て今宵こそ家婦一人おされれば帰るるに待りけりて尋して若き
糸りと懺えんりのとと神交り成りし我家と立出た産生神の社に納
めし鬼女の面と集えて顔又押出申白の髪以上よりけり白帷
引扱よりまをたまこそ我身もくも恐く々れ極心もくもやうの我はあり
たまめて家婦の帰るるに治次よ出て海邊如坊が仰り又我は難好
難好と云く神佛と踏くは親の心よそくして白山権現の命と云
只今迄まで出るるぞ若衆と改め山山ありを止り老母の心は流れん
を夫婦とも抱き教さんと罵らば瓦礫きりのいりて是と怖らんとて
目と物とをば遠くを今やくと若居るる廿日の月の東の空よと登りし
雲の刻むりや又惣括が毒の唯独り弥陀乃所各所唱つ我家を
さして降るる死に待り入けりてまをれに教の中より女きてたまけ
踊りおんとせりわが衣の裾の裾引りし白間とるるを白紅婦

の悲しと見えりもせば一さんよまをりて流に老母の心は巧く巧くの夜
よりあつたこそおまはしと被刺とせんぐと踏まされた夜の夜こそ心の
まをりておさんとて情一面と放さんととる小太刀離と成りていふわく
胸騒ぎ満ちたけかたまうせて引とまをりて動くまをり今もや耳鼻
をひしと肉みつとて生えつとて若鬼女とは有りぬ涙ましと涙りて
とる程ぬぬはとととる枯木の生えつととと一足も歩みぬりたあき
まに何きれと云居るる冷方をふぞと人みたる家婦の形をすの心し
まをりてまをりて跪き宿とゆりされと老母の一人泣きふり何れ人形
泣ひしやとまて看居て見とるわがふ又惣括とまをりて毒の物と云り
又惣括といふせんと毒じとけりしが是いつ月とて我と汝と夫婦
連りて糸のものを今宵は一人女の糸の夜をけりて降り奉らん
と心えりておひ泣ひ迎ひよとてお泣ひしをまははちて泣きとて
趣りしれり乃るる人先をまら又被てお人と尋ねぬしとて夫婦
お連急ぎとけり又被竹敷の石よま居るものあり又惣括をけ
てお人よとけりておのわが我こそ汝かおるるをととめくと泣き



嫁おどし
谷乃里来



多う成るよりよむとよくとれはいつく夢い老母をれども只は爾生ひ思
後日成見物一冊の後の後肩みわたりまうらうとありぬ鬼女たり
それの法はし何とてうの法を極まてけ教るに只独りうをた
まふとをうくとして尋たれい老母も涙とらうらひておしきつひ
まうらうとてい蓮如上人の所罰して生なぐらの鬼女たりうらう
我いもうる老世の法業うや佛縁をく汝夫婦が堅固の信心成る
性生報謝の稱名のいまうくいふ世してけ信心を確さんとゆる法
はしき法又ま出家夫婦のうらとをわらうけし懺さんと行居うら小悲
しや自業自得の理りて被けし面のいしと左付列も勅せし
又離るるは悪業の源を我るれが只けふに捨てて邪見り老
のん懺しよせよとて雨やとと後たれがと熱法夫婦のうらしよは
云ん方なく叔法はしり所身の呆うそけふそやけ世えたけし稀る
鬼女たり来未と何とせけふらんと大地は勝ひい世て血の源とる
じて教きうらうと熱法母は向いてややう海たれとたう難き罪業
し懺悔ふは滅とらうと安けい當附若修の所坊ま在蓮如上人こそ

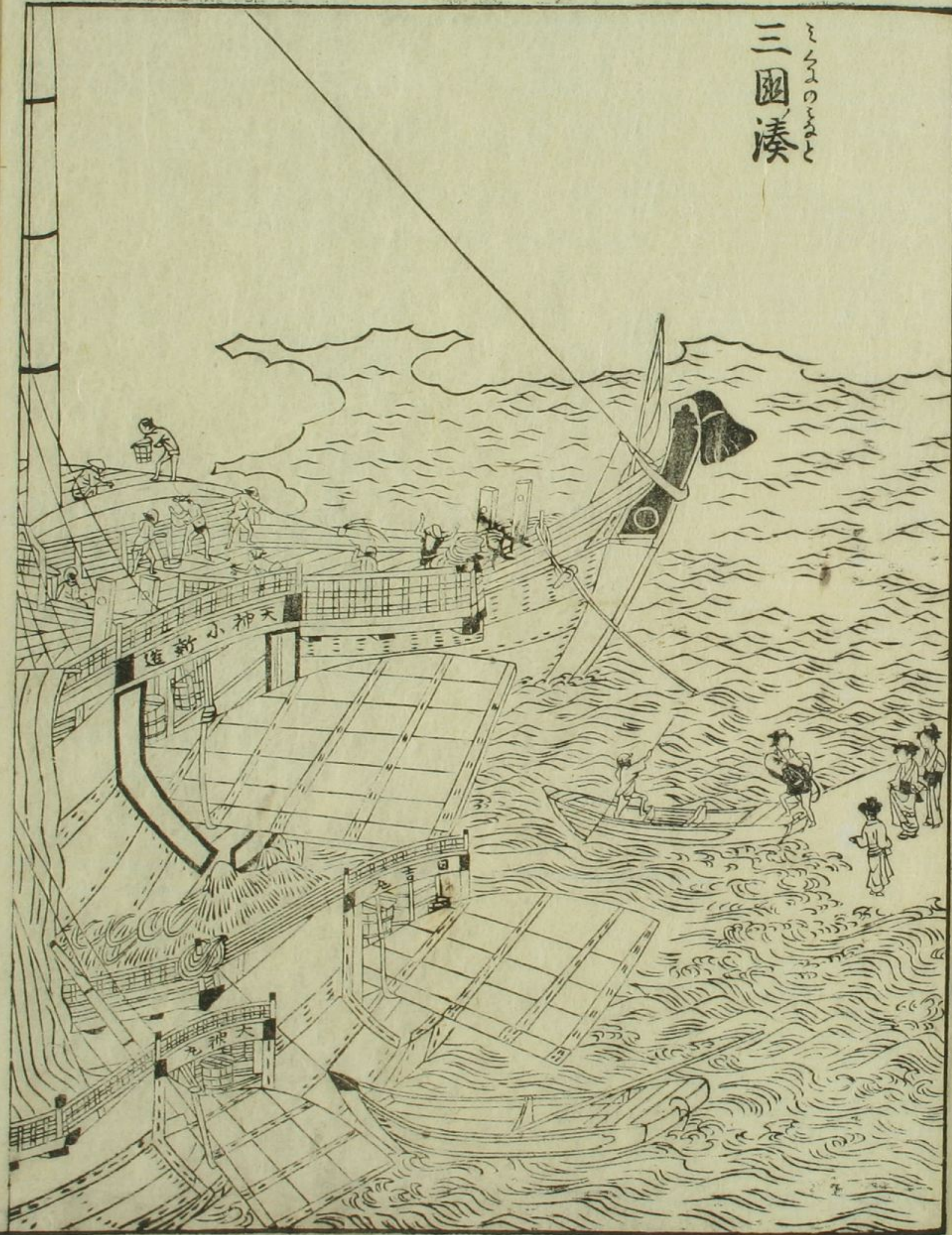
祖師再来の若知識をれは是より所山へ系消し上人の勅化をせ
徳聞し終ひけ世いたる鬼とせうれ絶しうれ来未成佛こそけこの
所要るれとめきうらうと勅めぬとにせしと懐念邪見らる悪女をれた
り於例の罪業の源きをを顧て忽と一念成脱して先罪と悔と後生
と懼とまうらうと雨と合せ宗祖聖人祝の蓮如上人許せ終る事
吾阿弥陀佛くとも又念佛くうらが不名法をうらう鬼女の面破羅
彌と地と成るまうらうとてうらふ足も勅き始て四の老母とはありぬ
不思議をうらうと信心の成脱せうらうやうらう難や如律の老
母の鬼と化したるも廣大慈悲大慈大悲乃うらうて佛と法とも希
へぬ法はしき我くと攝取して捨法りぬ如來の所折法のうらうとれけこの
佛恩報謝の念佛こそいふく後世のたのまありと親ま夫婦二人法
も勅法の限うらうと直よ若修へありつ蓮如上人は濁くなり終ひ
のよと所物語りや上所教化と報ひなるふ上人不解教いたまひ
たまうくも勅化けせ終る附と老母のうらうの所法のうらうと我ら世う
教るまき懐き顔とて上人の所勅化所法蓮の源とて踏と只家のうら

西光寺

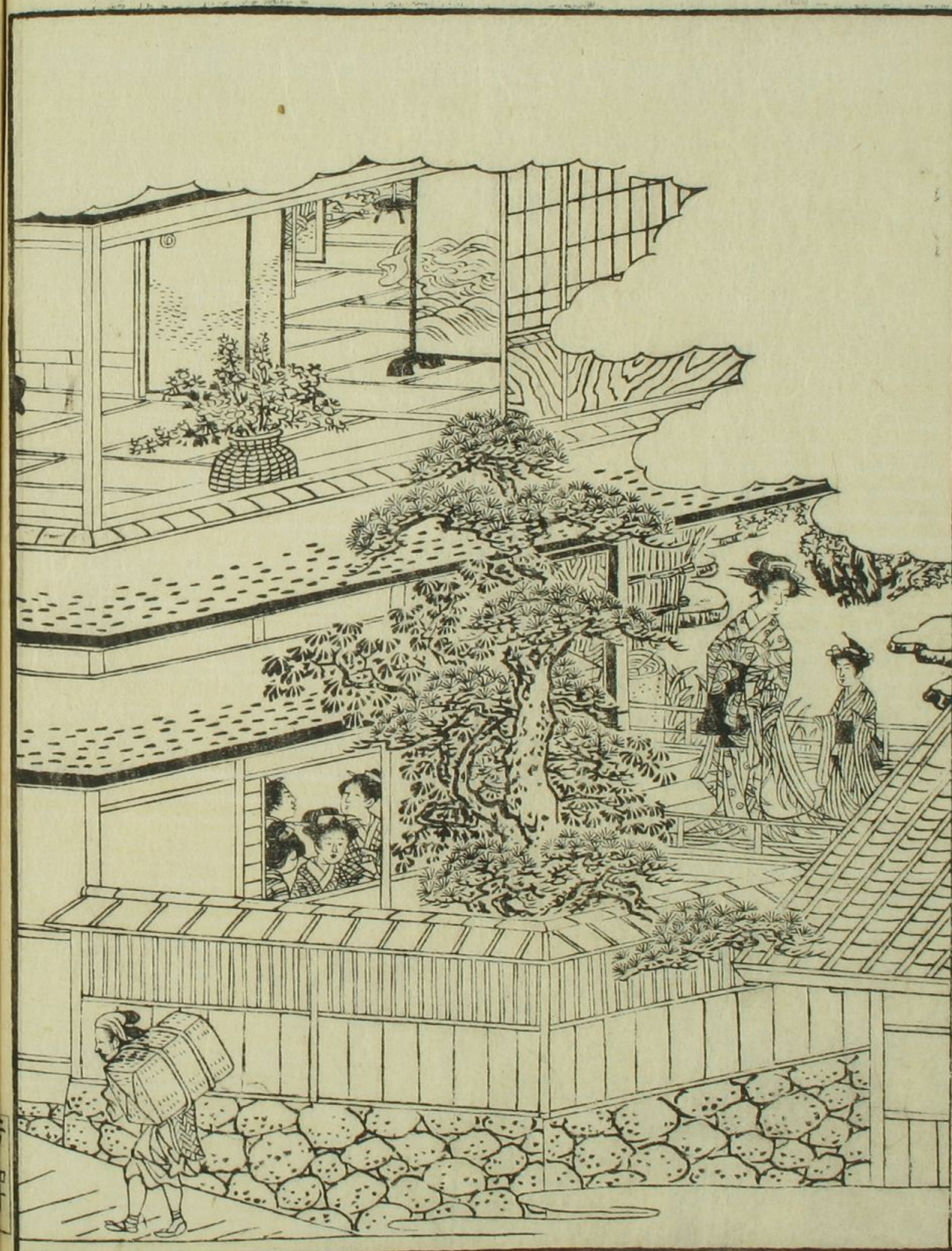
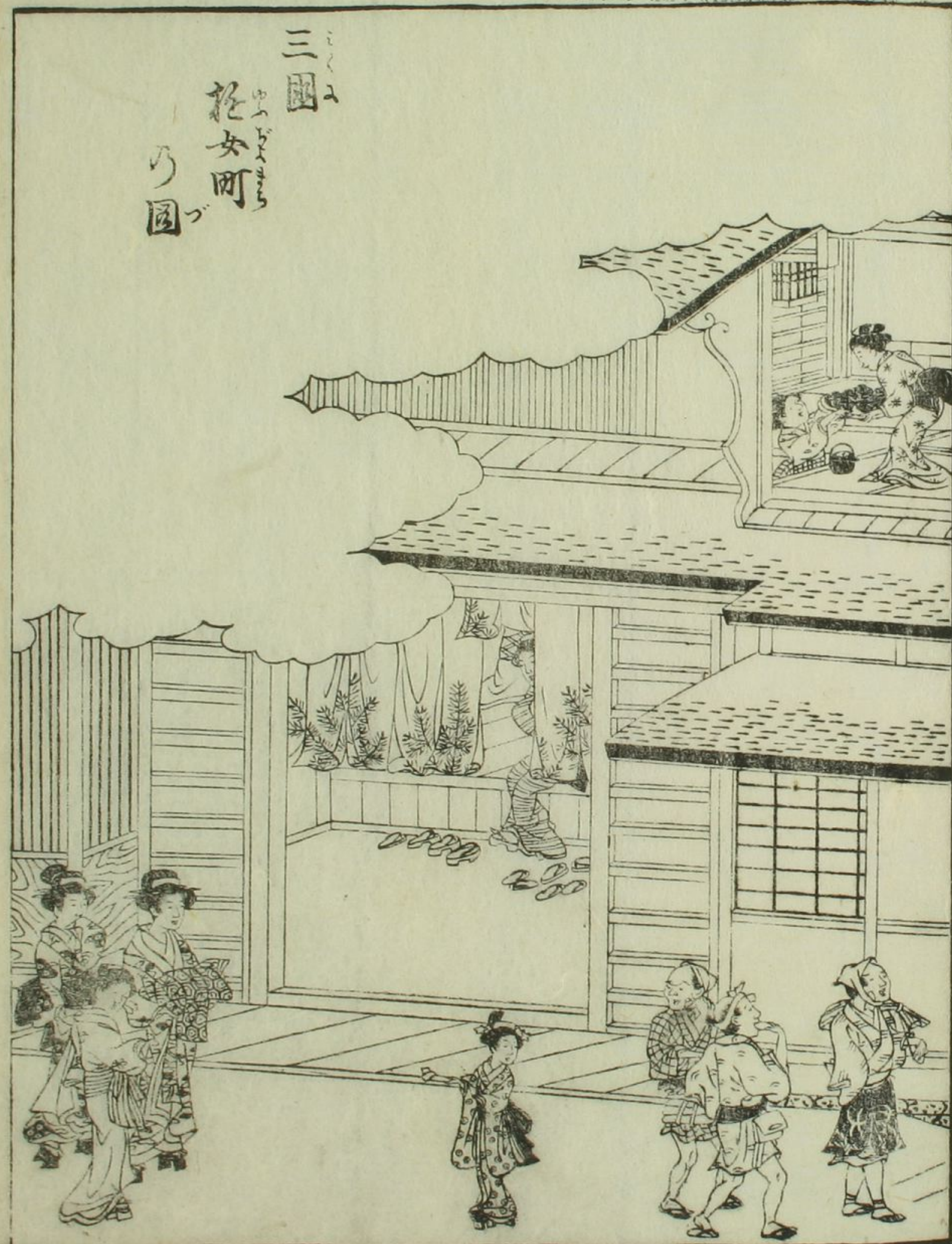


ありて人の顔の美嬌と娘々今宗風繁昌上人の化益に依て集り
 集り諸國の男女幾多あはれは知れぬ我も勝る悪女も河にま
 志宗儀を志い浄化益と徳開せり名のよき己かめり散勢と人
 見とるも乃やんるど地もいぬ悪念の起りあり浄坊へ集りせば
 人の絶よしと思ひくじり悔き心より生えり悪女も如く悪人
 又てさうさふゆゑ悪業乃我々も如來の浄慈悲上人の浄化益
 又て未來の苦患とまぬが後生に負後願ふせよ浄法のい
 浄法に終りれしと波よんく截悔一たれが上人ありよも殊勝の
 又と名とけ世の貌愧き又後三後の悪女より一念發起し助け後
 と一度如來とれと身存とれい濁る泥の中より蓮花の、さだく
 出たりく未來の極樂浄土に往生せんや又疑ひあへりいそ
 浄文一章と撰述し終ひ彼老母とあふ終ひぬ則若湯の浄文章乃
 中又極樂へ希りて英妻佛とあふきなりとあせ終ひ醜婦と憎
 足はしまに浄文言ひ今又現世より是より彼竹藪の内にありと
 嫁坤じ若く号け老母が被じ鬼女の面もそあはれありや

三國湊



三國
花女町
の園



加賀國

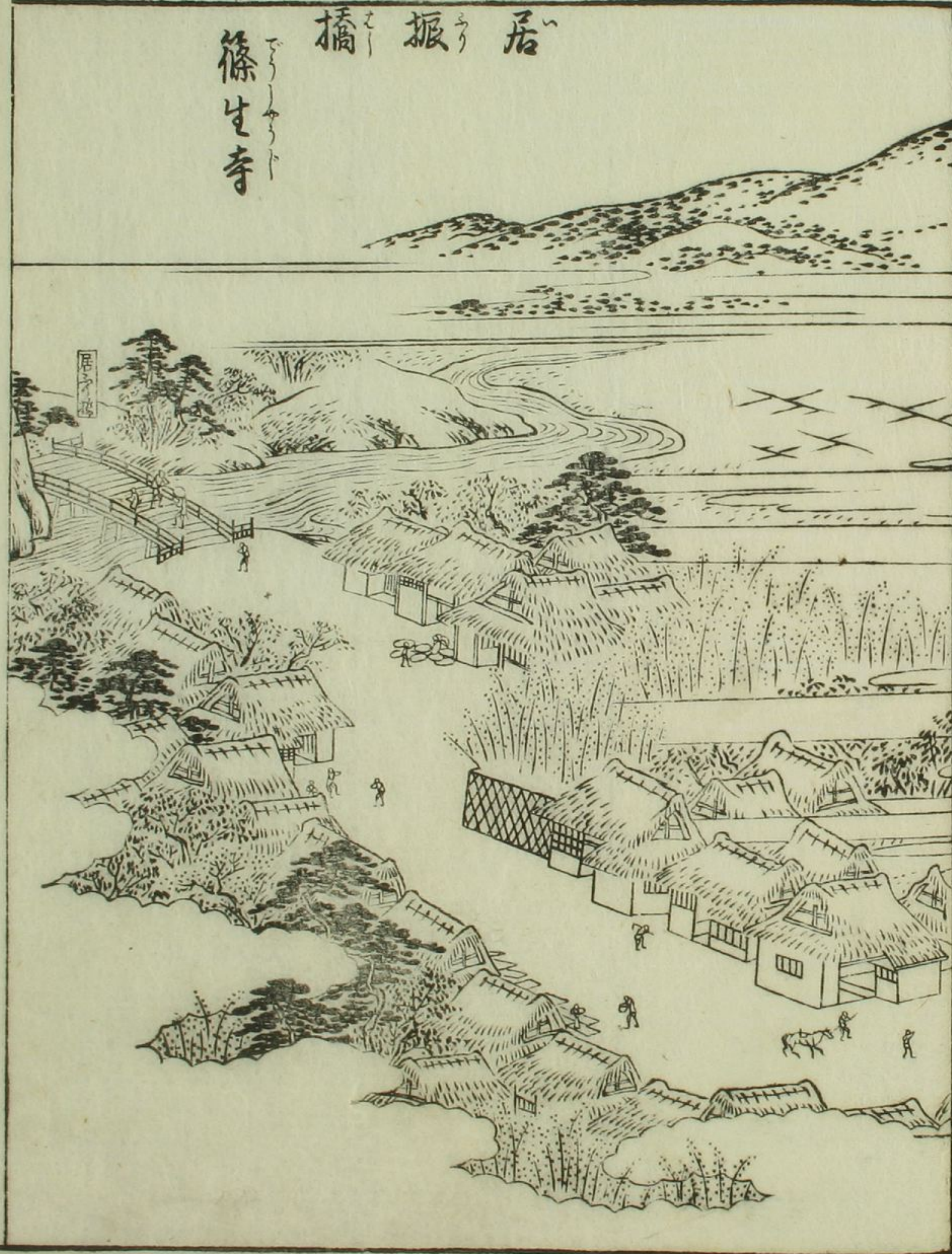
○三國の坂本郡の川口ありて高野乃家居に余とつゝ孫を
 変へ諸國の高松駿嶽へ入津け海濱に鏡と紫き石をき日
 あふは旅客の控宴を申す時うく瀧は小園第一の大湊方り三國の傾
 瀧町の古き名ありて今も出村と町地宛町と多くの花若石のお
 とく花の系竹の洞も都めとて旅人乃憂と忘りよとてかたりけし
 又勝岩寺とありあり寺内は大きな石橋ありて孫甘乃と孫を
 茂國の後安加賀の大智寺令沃をとの控宴妓女と携へはとて
 花と称し宴とをいふまにむとねと物とありあり川の流るる
 加賀の客人令銀の扇あまこ式に詩をありい備湯の後方た
 うつしく書て彼系とらうと備ひ付己がお知する妓婦と又訓深
 き控君も是見よとしくとらうと備ひ付己がお知する妓婦と又訓深
 て新造の女郎してを橋に付させたりをいふ 凡つと花とありあり乃
 不釋たるは彼を真とまされてとらうと備ひ付己がお知する妓婦と又訓深
 たりたりは彼を真とまされてとらうと備ひ付己がお知する妓婦と又訓深

○狐若福母より加賀の大聖寺と約程十一里大聖寺より一里ありて
 西山田村とありありけ村蓮如上人沖息男取極大徳の沖末孫武兵衛

蓮如上人
 垂線を信る



居振橋
篠生寺



白山
遠望



とる民家あり安より又一里むり居振橋とて入るに藤生寺とて
 蓮如上人の御齋法あり蓮師安とて稗と食し終ひを包う藤と地
 にし終ひは忽ち根と生ひ今又其藤ありて系先は巻う藤乃
 痕ありとてあり又藤生寺と号しとて
 ○大聖寺より三里ゆてら中の湯あり安又西照寺とて入寺あり是も
 蓮如上人の御齋法あり

○加賀國白山に城あり城の中飛騨の口ヶ國と勝る高山之二十に攀巡治
 にはありはとて人も城を國久村九段新川 船橋の法よりと遙
 見ありあり白雪深く積り最上の雪の消る日いたとて白山の雪
 ちち中の初はしとて山頂より眺みとて大なる池あり福水山岸と後し
 其源とてとて人々くはな二石橋が池とていつけやうとて
 百合ありとて花とてはしはり系神修持冊多又菊狸娘とてまう
 白山拾遺とて山あり

○城と加賀の國界の入口と蓮の浦とて秋名石とて
 飛ぶるきぬ細うやとて小波蓮のうらひゆてふとて
 ○加賀國蓮の花の客より山の浦と竹の浦とてり古秋う
 小波竹のうらひ風吹とて馬砂とて秋乃てり



齊藤別当
實盛



篠原



但馬興宗寺

東流

祇園後舟より十二里半加賀江原郡
月津の里より

本尊阿彌陀如来の慈覺大師乃所化之祇園後舟興宗寺と
月系の寺なりと云り

○月津の里より西の方海辺と篠原といふ村昔は別當実盛等
發と雲と深討祀也古戰場なり道の傍又実盛の塚あり後成御の
寺なり
世乃中い後舟と云けき篠原や篠原はしるは味ゆらよと云

鳳凰山本覺寺

東流院家

月津より二里半美郡小松あり

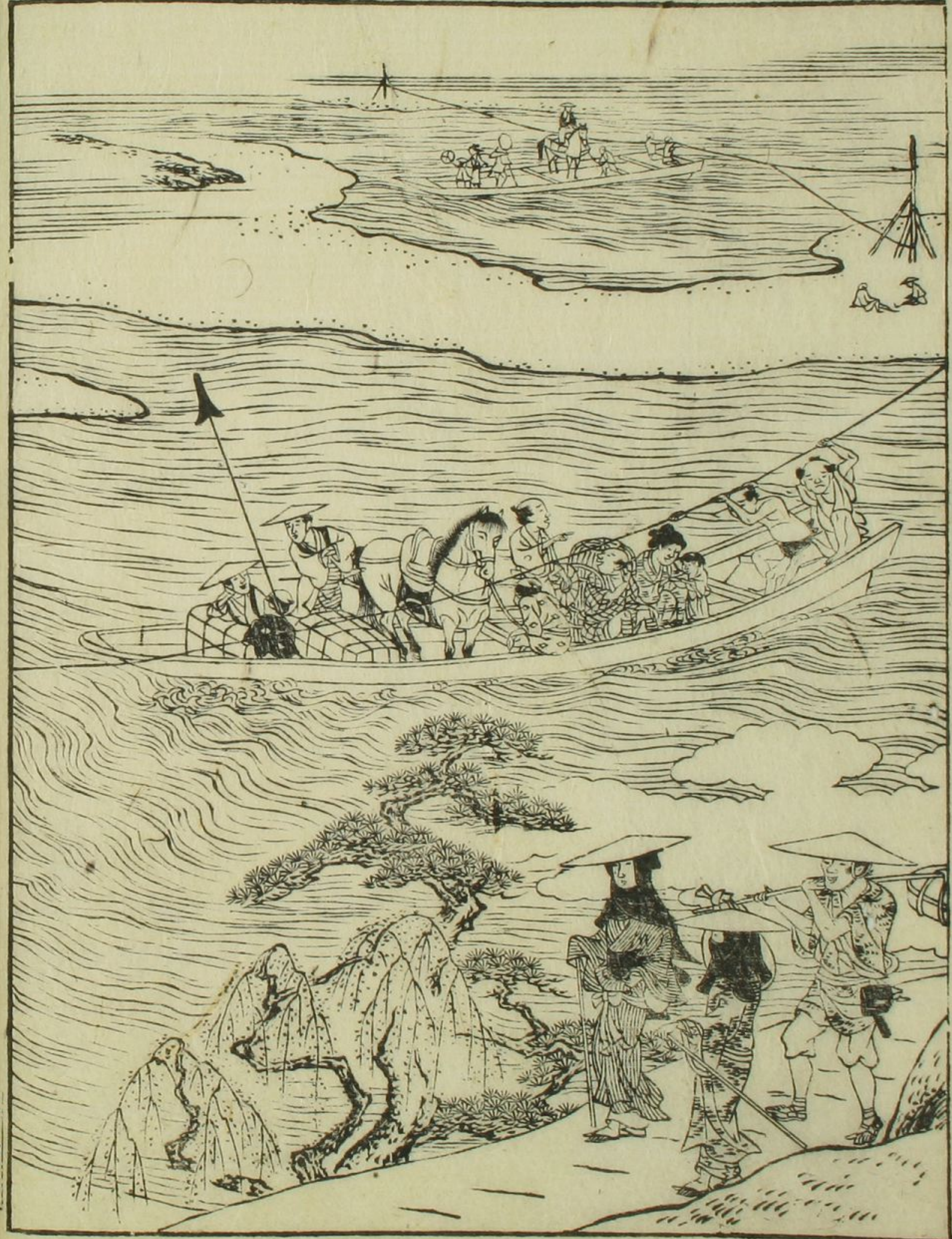
本堂九間に面高祖聖人蓮如上人蓮舟の所教と安正公以○祇
園後舟本覺寺と月系の寺なり

○月系は長春寺といふあり是の蓮如上人乃所弟子了珍の寺法なり
○月系といふ所の間より月系川といふ大川あり川幅九一里より水の流れを
村より流流と云りて後舟よりなりけ有又川の兩岸は欄と引渡り
渡り守橋榭といふは欄とも榭ともいふの方へもなり

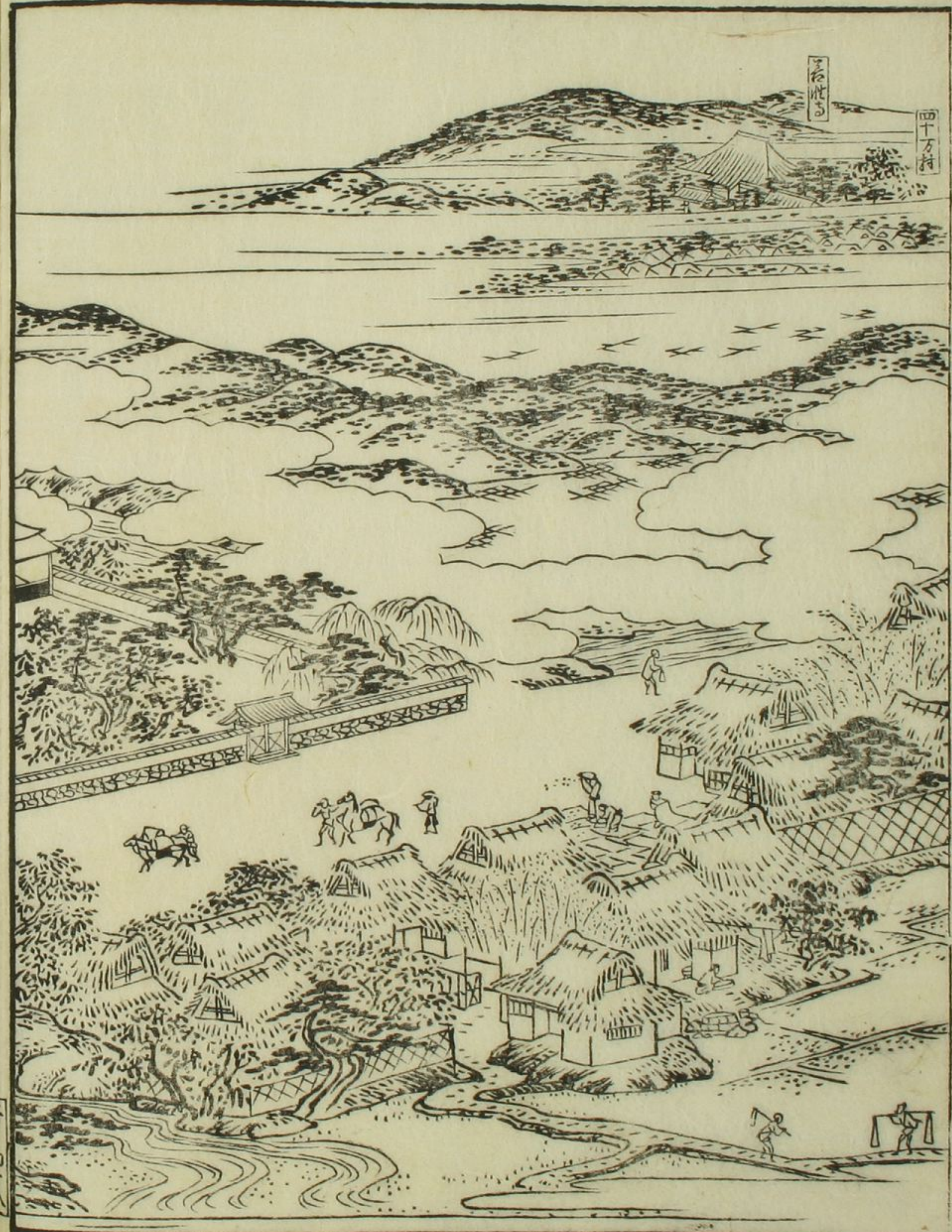
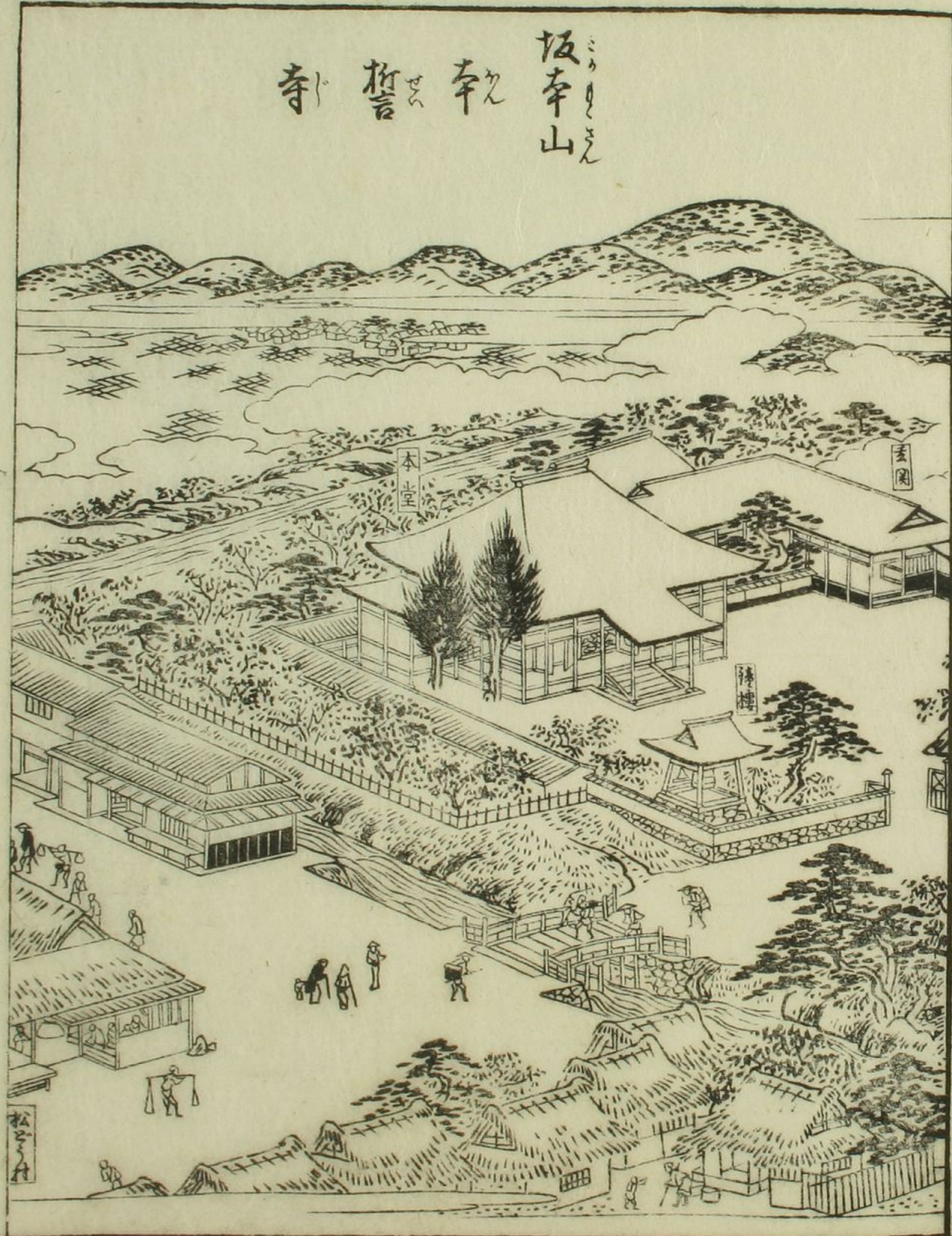
坂本山本誓寺

東流 小松より二里半
院家 石川郡松任より

川取手

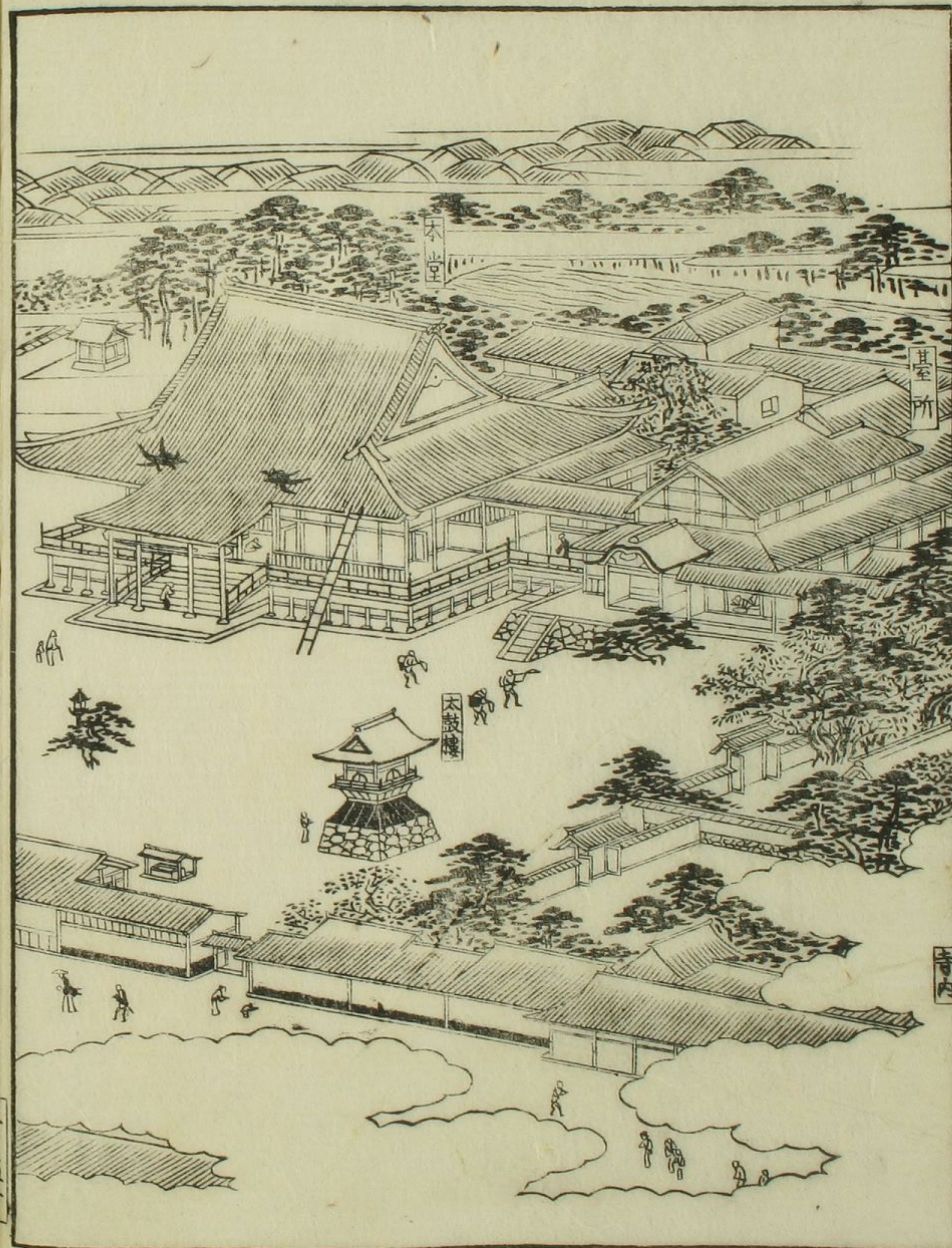


坂本山
本堂
誓寺





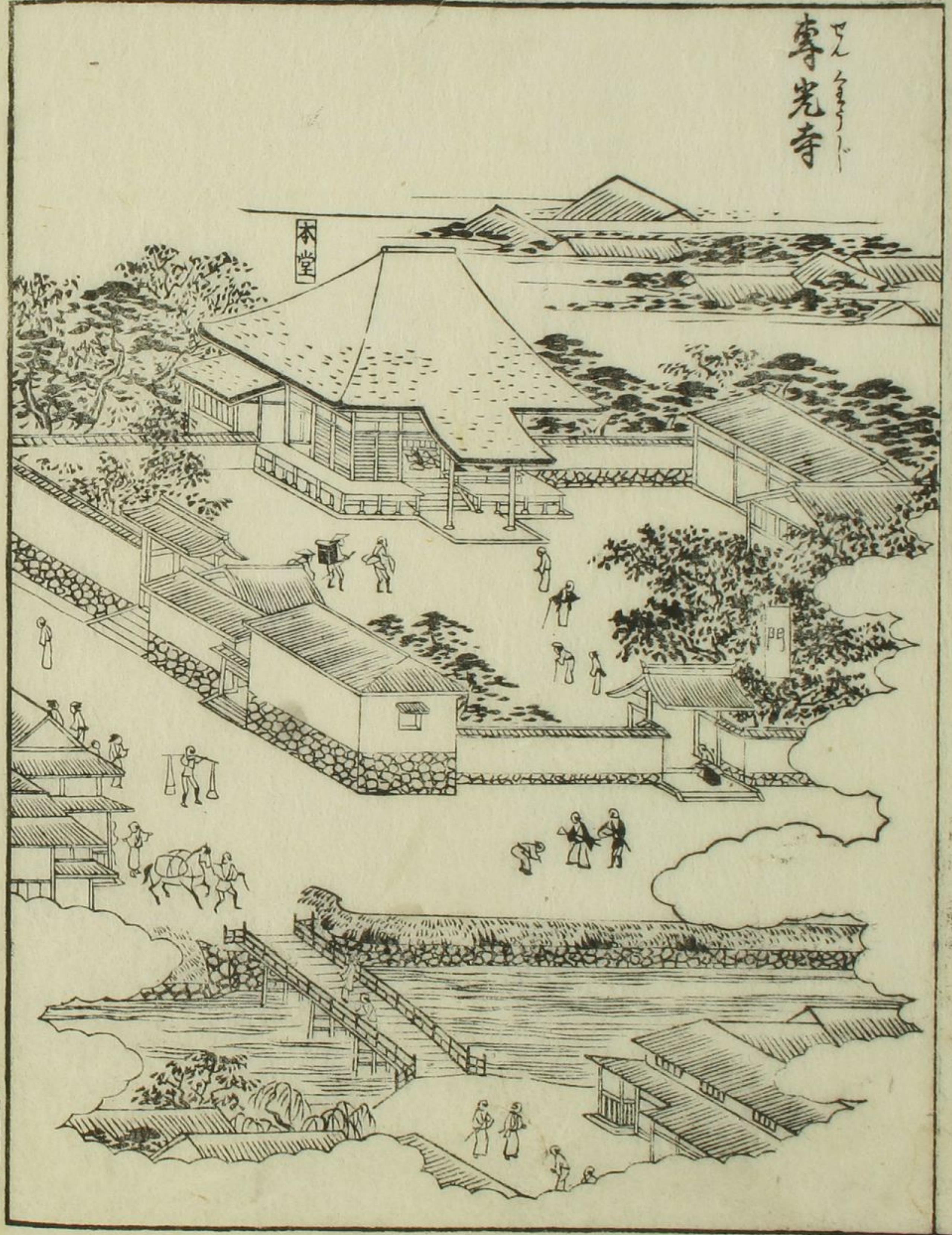
澤全々
東沅坊



金澤
西流御坊



専光寺



○月御真筆光明本 ○二歳古子乃像 聖王人 御能 ○御繪傳二幅 六佐光 葉茶
 覚如上人御裏書 ○古子傳五幅 全園 ○いろは歌懸物 蓮如上人 御筆
 ○往昔岡基圓政上人の本像

○松任より一里半外にては十方持の専光寺とあり蓮如上人乃御舊跡あり

金澤東流御坊

松任より二里半

本堂二十三間四方

同 西流御坊

本堂十五間四方

専光寺

東流院家

金沢城下あり

用基の信念上人本堂十三間四面本尊の弥勒佛と鳥佛師の他也
 ○九字十字の名号の聖人御真筆と傳素紙

○光教寺 西流 日所江沼郡山田あり



松麻山
本泉寺



尚寺又光開坊と号く蓮如上人の所達校蓮哲言法印の開基あり

○松麻山本誓言寺 在流 院家 今保より三里二又村あり

尚寺の蓮如上人開闢し終る靈場ありて中を九間口面○即蓮如上人自ら修せ終る庭あり又廣庭に梅の古本ありとれ蓮如上人の植る終るあり

二十日輩順祥圖會卷之二終

